

| 京 | 都 | 府 |
|--|--|---|
| <p>1・1 仁左衛門・我当一座の東西合同歌舞伎「名工柿右衛門」ほか(南座)。</p> <p>1・5 教壇音楽人懇談会(鳳徳小)。この会合の意見に基づき9月京都市音楽教育研究会(会長平井善次)結成、戦後音楽教育の創始。 京都音楽史 茶の道50年</p> <p>1・一 初釜復活。 1・14 クロイツァー連続第1回演奏会(京都新聞会館)。京都 1・14</p> <p>1・15 茂山千五郎、千作を襲名披露に「庵の梅」初演(金剛能楽堂)。京都 1・16</p> <p>1・16 木村府知事、文化政策確立のため、三宅周太郎・金剛巖・千宗室らと懇談。京都 1・18</p> <p>1・20 春の希望音楽大会(田畑義夫ら、松竹座)。京都 1・9</p> <p>1・24 長久座開館。4・1鳥丸松竹、8・8都館、9・19宝座開館。 京都 1・21、4・1、8・8、9・19</p> <p>1・29 松竹京都撮影所従業員組合結成。なお昭20閉鎖説のあった松竹京都撮影所は、3・9形式上は大船と一元化のかたちをとるが、5・29大船失火後持直す。 京都 1・30、昭20・11・10、映画芸能年鑑 昭22</p> <p>1・31 壬生館、壬生東宝と改称。京都 1・31</p> <p>2・1 鴛雀・我当一座の歌舞伎、戦後解禁の「廓文章・吉田屋」「天網島・河庄」ほか上演(南座)。(1)</p> <p>2・1 高田浩吉劇団第1回公演(京都座、～2・11)。映画人が新円かせぎの舞台進出流行。 5・10月形竜之助の制作座第1回公演(花月劇場)。京都 5・10</p> <p>2・25 六花街芸能大会(京都新聞会館)。京都 2・24</p> <p>2・26 遊楽座開場。6・21京極演芸館、8・23京山座・南大正座、9・22西京劇場、12・31千舟座開場。</p> <p>2・一 11世堀内宗完没(33歳、幽峰齋)。 京の茶家</p> <p>3・1 坂東簗助らの新劇場第1回公演、チェホフ原作「厭々ながらの喜劇役者」ほか(京極東宝、～3・10、第1・2日は京都シアター・ギルドが演劇復興祭と銘打ってロード・ショー)。(1) 京都 2・25、28</p> <p>3・4 大映京都撮影所従業員組合大会。大映では最低給与600円・団体協約締結を要求し春季攻勢に出、5・20要求貫徹。 京都 5・10、映画芸能年鑑 昭22</p> <p>3・7 春の音楽祭(汲岡惣一郎ら、京映)。4・17歌の花まつり。京都 3・4、4・17</p> | <p>3・7 新輸入洋画第1陣アメリカ映画「春の序曲」封切(松竹座、好評)。京都 2・28</p> <p>3・10 豊島一、戦後解禁の「蟬丸」演能(金剛能楽堂)。(2) 京都 3・10</p> <p>3・15 璃珣ら歌舞伎、戦後解禁の「心築紫恋慕珠取」ほか上演(京都座)。</p> <p>3・中 京都府下の興行場、発疹チブス流行のため消毒。演劇年鑑 昭22</p> <p>3・21 能楽鑑賞会(京都市文化課主催、金剛能楽堂)。戦後能界、観賞者拡大につとめる。京都 3・18</p> <p>3・27 名流邦楽と舞踊の会(榎茂都陸平・井上愛子・若柳吉兵衛・芳村伊四郎・文字八・梅屋勘兵衛・萩原正吟ほか、京都新聞会館)。京都 3・20</p> <p>4・20 京都音楽研究所発足。5・11京都人文学園音楽部(代表上村けい)と改称。京都音楽史</p> <p>4・23 平岡養一独奏会(京都新聞会館、～4・24、盛況)。京都 4・24</p> <p>4・29 金剛宗家還暦祝賀能(金春光太郎・片山九郎右衛門・梅若万三郎・茂山千作・金剛巖ほか、金剛能楽堂)。京都 4・29</p> <p>4・一 常盤津家元文字大夫入洛、稽古開始。京都 4・28</p> <p>4・一 京都市文化課、文化団体調査。(3) 京都 4・20、5・23</p> <p>5・1 全映京都支部、メーデー参加。「勤労者演劇の夕べ」(京極東宝)。京都 4・27</p> <p>5・1 阪東好太郎長男吉弥初舞台(京都座)。演劇年鑑 昭22</p> <p>5・1 鴨川をどり「平和日本」(先斗町歌舞練場、この年全国で唯一の花街の踊り)。京都 4・22</p> <p>5・5 猿之助劇団に水谷八重子(南座)。京都 4・27</p> <p>5・11 京都市音楽団定期演奏会開始(「組曲イゴール公」ほか円山、以後毎月第2土曜)。京都 5・9</p> <p>5・12 引揚者救護資金募集芸能大会(香島ラッキーら、京都新聞会館)。同目的の催し盛ん。京都 5・10</p> <p>5・21 西本願寺奉納能復活(金剛巖ら、同寺能舞台、以後毎年継続)。京都 5・13</p> <p>5・一 京都興行協会創立(会長井上義卓)。映画年鑑 昭27</p> <p>5・一 演劇雑誌『幕間』創刊(和敬書店)。同上</p> <p>5・一 中絶していた京都学生映画連盟再出発(同大・立大・府立医大・京大等加盟)。京都 5・23</p> | |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|------------------|--|--|--|
| (1) | この公演は「宣伝も行互り、保守的だが珍しい物好きの京都には、案外世間から期待せられている有様で」(三宅周太郎)、事実地元の『京都新聞』も「自由に伸びようとする演劇をめざす良心的なものが期待される」と述べていた。坂東簗助が京極東宝「在来三友劇場と称され京都人には下司な芝居小屋として相当以上の悪印象を与えている劇場」(田口竹男)に飛び込んだ今回の公演は、ことほどさように衆目の的であり期待されていたのであるけれども、しかし「不幸にしてこの企てはいろいろなる条件が重なり興行的に失敗に終わった」(田口竹男)。 『劇場』昭21・4、[幕間]、京都 2・25 | 1・19 | 村山知義ら新協劇団を再建。2・19より再建第1回公演。 |
| (2) | 戦時下にあつては風俗紊乱等のかどで追放されていた、近松の世話ものや「苺菫桑門筑紫軒」三段目等の歌舞伎狂言、皇室に関する狂乱物として禁止されていた能「蟬丸」等が続々陽の目を見ることとなった。 京都 1・18、幕間 昭21・6 | 1・20 | 「東京新聞」に歌舞伎消滅が報道され、劇界に波紋を投げる。 |
| (3) | 当時京都における主な文化団体(芸能関係確認分)。 京都 6・19、20 | 1・28 | GHQ、「映画検閲に関する覚書」を出し検閲開始。 |
| 映 画 演 劇 | 京都シアター・ギルド 京都学生映画連盟 劇団ドオゲキ 映画の若葉社 映画、劇研究会 梨園社 同志社大学演劇研究会 竜谷大学劇研究部 | 能勢 克男 高橋治三郎 脇田 悦三 西村 昌純 青木福三郎 高谷 伸 森田 竜男 | 2・1 大阪文楽座、再建。 2・3 竹本南部太夫没、52歳。 2・11 梅若万三郎、文化勲章受賞。 2・21 「大曾根家の朝」(松竹)封切。 2・28 洋画輸入第1作「キューリー夫人」(春の序曲)封切。 3・1 東芝第1回公演「人形の家」(有楽座)。 3・10 入場税、改正。3円50銭以上は10割、以下は5割となる。 3・10 高崎市民オーケストラ、創立(のちの群馬フィルハーモニー)。 |
| | 音 楽 | 京都音楽研究所 京都合唱団 京都自由合唱団 京都音楽院 京大オーケストラ | 3・15 12世片岡仁左衛門没、65歳。 3・19 俳優座第1回公演「検察官」(東劇)。 3・21 東宝従組、15日間のストライキ断行。 4・25 都民劇場、発足。 4・26 土方与志ら新演劇人協会、結成。 4・28 日本映画演劇労働組合結成。 5・1 バラ座第1回公演(共立講堂)。 5・14 東宝交響楽団第1回公演(日比谷)。 5・25 日本現代音楽協会、結成。 5・23 映画「はたちの青春」封切。初めてのキス・シーン。 5・26 三浦環没、63歳。 6・一 東宝、第1回ニューフェース、三船敏郎・久我美子ら採用。 7・23 第1回毎日映画コークール。 8・9 東京バレー団「白鳥の湖」上演(帝劇)。 9・5 文部省と芸術祭執行委員により、第1回芸術祭。東劇・帝劇で歌舞伎・能・新劇・オペラ・舞楽・邦楽・洋楽・バレー等参加。 9・13 望月太左衛門没、44歳。 10・15 松竹・東宝・大映が日映演の統一要求を拒絶したため、東宝系劇場はスト突入。松竹も一部合流。 10・29 「わが青春に悔なし」(東宝・黒沢明監督)封切。 10・一 『テアトロ』再刊。 11・20 前進座、学校巡演をはじめ。「レ・ミゼラブル」。 11・23 東京自立劇団協議会、結成。 12・3 東宝ストライキ、50日ぶりで解決。 12・7 川上貞奴没、76歳。 |
| (4) | 不入りの原因は興行内容にあつたのではなく、京都の食糧事情が急迫していたためという。(『劇場』昭21・6) | | |

| 京 | 都 | 府 |
|---|--|---|
| 5・1 祇園座(祇園の名妓花千代らの劇団)創立。 京都 5・31、演劇年鑑 昭22 | 映・大同の各京都撮影所員等約670名、松竹座)。 京都 8・27 | |
| 6・6 梅玉・延若一座歌舞伎「心筑紫恋慕珠取」ほか(南座、不入り)。(4) | 9・1 府警、府下全興行場に<顔パス>禁止を指示。 京都 8・29 | |
| 6・9 石井春枝舞踊研究所第1回公演(京都新聞会館)。 京都 6・9 | 9・10 「国定忠次」(大映京都、松田定次監督、阪東妻三郎主演、農民解放のテーマ映画)封切。 大映10年史 | |
| 6・13 「待ちぼうけの女」(松竹京都、マキノ正博監督、高峰三枝子主演)封切。 | 9・14 京都文化団体協議会創立(京都市役所内、約200団体)。 京都 8・31、9・28 | |
| 6・16 京舞保存会、京舞の会と改称、本格化。邦楽のあゆみ | 9・21 伊丹万作没(48歳、映画監督)。12・25『静臥後記』(大雅堂、昭36・7～11『伊丹万作集』(3巻、筑摩書房)。 京都 9・24 | |
| 6・23 第296米軍楽隊、京都市民対象の演奏会(円山)。 京都 6・20 | 9・13 11世久田宗也没(63歳、無適齋)。 京の茶家 | |
| 6・29 梅若万三郎没(79歳、観世流シテ方)。 京都 6・30 | 9・23 三和興行社創立第1回公演(藤山一郎ら、～9・25、華頂会館)。 京都 9・16 | |
| 6・30 大蔵弥多郎帰還記念能楽会(金剛能楽堂)。 京都 7・1 | 9・1 京都音楽クラブ創立(京都市役所内)。 京都 9・1、28 | |
| 6・1 京都学生演劇連盟結成。学生演劇盛ん。(5) 5・21竜大(同図書館)、6・21立命工専(京都新聞会館)、6・22～23京大(華頂会館)・府立医大(京都新聞会館)、7・20～22同志社高商(京都新聞会館) 9・14～15織専(同校内)。 京都 5・20、6・13、17、18、9・9、演劇年鑑 昭22 | 10・3 ヤサカ劇場、ヤサカランド劇場と改称。 京都 10・2 | |
| 6・1 京都歌劇団創立。(元宝塚スター宇治川朝子・日高澄子ら80名)。 京都 6・19 | 10・5 翫雀・延若一座、(南座、11世仁左衛門13回忌追善劇「夕霧伊左衛門」ほか)。 京都 9・16 | |
| 6・1 マキノ真三のプロダクション・マキノ芸能社創立、7・7創立記念興行(南座)。 京都 6・30 | 10・5 森本薫没(35歳、劇作家)。 京都 昭27・10・13、演劇年鑑 昭22 | |
| 7・1 阪東・西川・藤間の踊りの会(南座)。 京都 7・1 | 10・15 日映演労組、経済要求・統一要求(団体交渉権承認・団体協約締結ほか)貫徹のため、ゼネスト。京都でも、10・18大映京都撮影所従組がスト入り(10・31をストを打切る)。10・26松竹京都撮影所従組・11・2松竹直営館もスト入り(11・6松竹ストを打切る)。10・26京極東宝スト入り(～12・11)。京都 10・17、19、27、11・6、8 | |
| 7・1 前進座後援会発足。 京都 6・24 | 10・17 金春光太郎還暦祝賀能(金剛能楽堂)。 能楽思潮 | |
| 7・2 邦楽梨調会(阪東三津五郎ら、宮川町歌舞練場)。 同上 | 10・17 丸物百貨店7階に丸物劇場開場。 京都 10・16 | |
| 7・6 京極東宝、映画館に転向。新富座、京極松竹と改称、映画併演芸館に転向。演芸場の減少とインフレによる人件費・経費の膨脹は、軽演劇衰退に拍車を加えた。 京都 6・24、映画芸能年鑑 昭22 | 10・19 アマチュア合唱コンクール(京都市文化課・京都放送局共催、栄光館)。 京都 9・28 | |
| 7・11 京都興行協会、京都市内映画館の夜間興行実施。 京都 7・7 | 10・20 都山流尺八演奏大会(京都新聞会館)。 京都 10・20 | |
| 7・1 『映画芸術』創刊(星林社)。この頃映画関係逐次刊行物氾濫。(6) 京都 7・29 | 10・20 第1回京都市民文化祭(京都市・京都文化団体協議会主催)。歌舞伎・能・新劇・文楽・洋楽・舞踊等参加(京都市内各所、～11・20、以後昭23まで毎年継続)。 京都 10・10 | |
| 8・7 七夕祭復活。8・16大文字復活。 京都 8・6、17 | 10・16 京都映画(株)設立。 京都年鑑 昭37 | |
| 8・18 劇団ドウゲキ公演(華頂会館)。 京都 8・14 | 10・1 京都市観光連盟創立。 祇園祭 | |
| 8・21 農村演劇講習会(日本青年館(財)主催、～8・24、知恩院、西日本から70名参加)。 京都 8・3 | 11・1 京洛映画劇場、キャバレーに転向。 京都 11・1 | |
| 8・26 日本映画演劇労働組合<日映演>関西地区協議会結成大会(書記長佐藤春人、松竹・大 | 11・3 新憲法公布記念邦楽演奏大会(京都新聞会館)。11・9祝賀音楽会(栄光館)。 京都 11・1、8 | |

| 京 | 都 | 府 | 参 | 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----------------------|---|---|------|----|-----|------|----|-------------|------|---|------------------|-------|---|-------------------|--------|---|--------------------|------|---|---------------------|-------|---|-------------------|---------|---|----------------------|
| 11・7 吉右衛門一座(南座)。 京都 11・5 | 11・7 ニュース映画の会第1回(京都新聞会館)。 京都 11・8 | | | (5) 学生演劇の出し物は「いひ合はしたやうに翻訳劇で然も『どん底』であったり『桜の園』であったり『検察官』で」あり、もっと独創性をという声も起った(京都7・8)が、翻訳劇紹介ということ自体は「文化的啓蒙といふ点からいっても、学生演劇として意義のある仕事だといふ事が出来る」(山本修二)であろう。(『幕間』昭22・1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11・9 京大オーケストラ創立30周年記念演奏会(山田忠男指揮、ドヴォルザーク「新世界より」ほか、華頂会館)。 京都 11・13、京大音楽部沿革史 | 11・12 学生演劇コンクール(京大・府立医大・仏教専門・竜大・立大・同大等参加、～11・14京都新聞会館)。 京都 11・10、14、15 | | | (6) 昭和21～22年に京都市内で発行された逐次刊行物(映画関係)は次の通り。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11・17 京都シンフォニーオーケストラ第1回公演(華頂会館)。(7) 京都 10・10 | 11・20 勤労者演劇の会(華頂会館)。 京都 11・20 | | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>刊行物名</th> <th>頻度</th> <th>発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映画芸術</td> <td>月刊</td> <td>星林社(新町通四上ル)</td> </tr> <tr> <td>えくらん</td> <td>〃</td> <td>えくらん社(中、木屋町三条下ル)</td> </tr> <tr> <td>映画クラブ</td> <td>〃</td> <td>映画クラブ社(下、麩屋町三条上ル)</td> </tr> <tr> <td>映画マガジン</td> <td>〃</td> <td>映画マガジン社(下、麩屋町四条下ル)</td> </tr> <tr> <td>映画集団</td> <td>〃</td> <td>圭文社(中、西木屋町条三下ル大黒町7)</td> </tr> <tr> <td>映画の若葉</td> <td>〃</td> <td>映画の若葉社(東、祇園末吉町80)</td> </tr> <tr> <td>シネマスタイル</td> <td>〃</td> <td>シネマスタイル社(中、新町通錦小路上ル)</td> </tr> </tbody> </table> | 刊行物名 | 頻度 | 発行所 | 映画芸術 | 月刊 | 星林社(新町通四上ル) | えくらん | 〃 | えくらん社(中、木屋町三条下ル) | 映画クラブ | 〃 | 映画クラブ社(下、麩屋町三条上ル) | 映画マガジン | 〃 | 映画マガジン社(下、麩屋町四条下ル) | 映画集団 | 〃 | 圭文社(中、西木屋町条三下ル大黒町7) | 映画の若葉 | 〃 | 映画の若葉社(東、祇園末吉町80) | シネマスタイル | 〃 | シネマスタイル社(中、新町通錦小路上ル) |
| 刊行物名 | 頻度 | 発行所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 映画芸術 | 月刊 | 星林社(新町通四上ル) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| えくらん | 〃 | えくらん社(中、木屋町三条下ル) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 映画クラブ | 〃 | 映画クラブ社(下、麩屋町三条上ル) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 映画マガジン | 〃 | 映画マガジン社(下、麩屋町四条下ル) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 映画集団 | 〃 | 圭文社(中、西木屋町条三下ル大黒町7) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 映画の若葉 | 〃 | 映画の若葉社(東、祇園末吉町80) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| シネマスタイル | 〃 | シネマスタイル社(中、新町通錦小路上ル) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11・21 榊常吉追善舞踊会(宮川町歌舞練場)。 京都 11・21 | 11・23 3世歌沢芝虎襲名歌沢会(先斗町歌舞練場)。 京都 11・23 | | | 新スリーS週刊 合同通信社(下、河原町四上ル) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11・23 3世歌沢芝虎襲名歌沢会(先斗町歌舞練場)。 京都 11・23 | 11・24 長唄各派合同など邦楽界の民主的協力をめざし芳村伊四郎・清元梅寿太夫・常盤津文字太夫ら邦楽鳴鳳会を結成、演奏会(南座)。 京都 11・21 | | | 聞興行情報 〃 興行情報社(東、山科上ノ寺井町1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11・26 「槍おどり五十三次」(大映京都、森一生監督、市川右太衛門主演、非道な武士に対する抵抗を描く)封切。 大映10年史 | 11・26 「槍おどり五十三次」(大映京都、森一生監督、市川右太衛門主演、非道な武士に対する抵抗を描く)封切。 大映10年史 | | | これらの刊行物も、昭22に入ると深刻な用紙不足の影響をうけて漸次姿を消していった(『映画芸能年鑑、昭22』)。今日迄存続するものは『映画芸術』のみであるが、同誌について今村三四夫『日本映画文献史』(昭42・鏡浦書房)に下の記述がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11・27 梅若派、南座に進出して劇場能を開催(梅若六郎・六之丞一門、「俊寛」「葵上」ほか、入場料25～10円、能楽民衆化の画期的な試み成功)。 京都 11・10、21 | 11・27 梅若派、南座に進出して劇場能を開催(梅若六郎・六之丞一門、「俊寛」「葵上」ほか、入場料25～10円、能楽民衆化の画期的な試み成功)。 京都 11・10、21 | | | 映画芸術、星林社発行 清水光が京都で発行した評論誌で、山村謙一が編集に当たった。30年に大映宣伝部に在った大橋恭彦が発行権を買収、発行社名を変更した。3号ほど清水光が京都より東上して編集という変そく的な発行となったが、後大橋が単独で当り今日に至っている。現在の編集は小川徹。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11・30 文学座京都初公演、森本薫「女の一生」(華頂会館、久保田万太郎演出、杉村春子ら、～12・1)。 京都 11・27 | 11・30 文学座京都初公演、森本薫「女の一生」(華頂会館、久保田万太郎演出、杉村春子ら、～12・1)。 京都 11・27 | | | (7) 「日響齋藤氏(注・秀雄)を指揮台に招いて華頂会館で催された京都シンフォニーが演奏中三度やり直しを命ぜられた」(京都昭22・10・20)というのはこの時のことであろう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11・1 能勢克男・小坂哲人・北川鉄夫ら新劇の発展・育成を期す京都演劇集団結成。 映画芸能年鑑 昭22 | 12・3 梅玉・菊五郎・三津五郎で顔見世(南座、「棒しばり」)。 京都 11・15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12・3 梅玉・菊五郎・三津五郎で顔見世(南座、「棒しばり」)。 京都 11・15 | 12・15 「歌麿をめぐる五人の女」(松竹京都、溝口健二監督、坂東夔助主演)封切。松竹70年史 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12・15 「歌麿をめぐる五人の女」(松竹京都、溝口健二監督、坂東夔助主演)封切。松竹70年史 | 12・18 諏訪根自子帰朝第1回京都公演(ピアノ伴奏井口基成、パッパ「シャコンヌ」ほか、朝日会館)。 京都 12・19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12・18 諏訪根自子帰朝第1回京都公演(ピアノ伴奏井口基成、パッパ「シャコンヌ」ほか、朝日会館)。 京都 12・19 | 12・22 長宗我部はま子舞踊団発表会(京都新聞会館、京都戦後初のクラシック・バレエ)。 京都 12・23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12・22 長宗我部はま子舞踊団発表会(京都新聞会館、京都戦後初のクラシック・バレエ)。 京都 12・23 | 12・31 「七つの顔」(大映京都、松田定次監督、片岡千恵蔵の初現代劇)封切。 大映10年史 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12・31 松竹劇場、映画館に転向。京都 12・23 | 12・31 松竹劇場、映画館に転向。京都 12・23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| この年 | この年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ▷ 大映京都撮影所、11本しか製作しえず。 大映10年史 | ▷ 大映京都撮影所、11本しか製作しえず。 大映10年史 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 京 | 都 | 府 |
|--|--|---|
| 1・1 天外と別れた十吾らの松竹家庭劇最終公演(京都座、十吾の病気で家庭劇はこの後自然消滅の形となる)。松竹70年史 | 6・1 宝座、京都オリオン座と改称。京都 6・1 | |
| 1・12 京都文化院設立(都新聞社提唱の京都文化表彰機関、新村出ら各界有識者)。京都年鑑 | 6・14 国際茶道文化協会(財)発足(理事長茶の道50年) | |
| 1・一 大映京都撮影所の製作方針、従来の時代劇映画中心から転換し現代劇映画に主力を注ぐ。 ⁽¹⁾ 京都 1・18、大映10年史 | 6・15 江藤後哉ヴァイオリン京都初演奏会(府一女)。京都 6・14 | |
| 2・1 2世雁治郎襲名大歌舞伎(延若・鶯雀改め雁治郎・寿三郎ら、南座、「吉田御殿」の煽情場面が話題をよぶ)。幕間 昭22・3 | 6・一 京都合唱連盟結成(京都混声・同大・京大・YMCA各合唱団等)。7月京都児童合唱連盟結成、7・12児童合唱祭(円山)。京都 6・14、7・11 | |
| 2・1 興行場、電力事情悪化のため興行時間を3時間短縮。3・26復旧。京都 2・2、8、3・23、6・17 | 6・一 『淡交』創刊。茶道ジャーナリズム60年 | |
| 2・25 戦後初の前進座京都公演「レ・ミゼラブル」(京都新聞会館、～2・26、入場料25円)。京都 2・14 | 7・1 京都文化会館、学生芸能祭で開館。京都 6・29 | |
| 3・一 茶道文化会発会(会長佐々木三昧)。京都 2・12、淡交 昭34・10 | 7・12 京都シンフォニー・オーケストラ第1回レビュー・コンサート(京都新聞会館)。京都 7・8 | |
| 3・一 京都市音楽団では従来の吹奏楽団に管絃楽を加えて新発足。3・21春季特別演奏会(京都新聞会館)。京都 3・15 | 7・17 祇園祭鉦巡行復活(長刀鉦のみ、5年ぶり)。京都 | |
| 3・12 東横映画、大映京都撮影所引継交渉成る。京都 3・20 | 7・20 東横映画京都撮影所発足(所長マキノ満男)。9・16第1作「ころも月の如く」封切(稲垣浩監督、上原謙主演)。京都 8・8 | |
| 3・18 大谷楽苑創立。創立10周年記念演奏会プログラム | 7・一 京都富士録音研究所で国産録音機完成。演劇年鑑 1949 | |
| 4・1 ヤサカ会館、京都初のロード・ショー興行開始。日本映画発達史、京都 3・28 | 8・1 全京都能楽界出演連絡能に東京の能楽師来演(金剛能楽堂)。同上 | |
| 4・4 金春光太郎・茂山弥五郎らの禅拙会はじまる。7・6桜間道雄・竜馬の初心会。能楽思潮 40-41 | 8・5 雁治郎・襲助・我当一座「夏祭浪花鑑」(南座)。京都 8・8 | |
| 4・5 新派60年祭(花柳・喜多村ら、舟橋聖一作「田之助紅」ほか、南座)。京都 3・26 | 8・14 西京劇場、京都セントラル劇場と改称。京都 8・14 | |
| 4・18 両千家和合の茶会(豊国廟)。遺芳集 | 8・17 音楽教育講座(京都市音楽教育研究会主催、C I E後援、栄光館、～8・18)。京都音楽史 | |
| 4・一 池坊地方研究生養成所開設。伝統華道池坊 | 8・21 <お産の映画>公開(松竹座)。上映是非の議論起る。8・28以後は成年女子のみに公開。京都 8・28 | |
| 5・3 憲法公布記念行事盛ん。5・2 勤労者演劇コンクール(京都新聞会館、～5・3)。5・3 全京都コーラス団合同大合唱(京都混声合唱団等約千名による大合唱「新日本の歌」、円山)。5・4 京都シンフォニー・オーケストラ発表演奏会(府一女)。5・10新人発表音楽会(円山)など。京都 5・1 | 8・29 指人形劇鑑賞の夕(京都自立劇団協議会、市民会館)。同上 | |
| 5・6 「壮士劇場」封切(大映京都、稲垣浩監督、阪東妻三郎主演、憲法公布記念) ⁽²⁾ 。大映10年史 | 9・3 清元紫紅会(京都新聞会館)。京都 8・29 | |
| 5・17 邦正美舞踊公演(京都新聞会館)。京都 5・17 | 9・25 新協劇団第1回京都公演「タルチュフ」(大森義夫ら、演出村山知義、京都新聞会館、～9・27)。京都 9・25、10・4 | |
| 5・30 藤間流舞踊公演(南座、～5・31)。京都 5・30 | 9・30 巖本真理・クロイツァー、ソナタの夕に聴衆が舞台まで溢れる盛況(府一女)。10・15諏訪根自子・原智恵子のソナタの夕(華頂会館)。京都 9・23、10・8、15 | |
| | 10・1 長谷川一夫の新演伎座初公演(南座)。京都 10・1 | |
| | 10・10 三宅三郎著『芝居・邦楽・落語』刊(和敬書店)。10・20堂本寒星著『佐多女芸談』刊(河原書店)。この年三宅周太郎著『演劇手帳』刊(甲文社)。 | |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|---|--|--|---|
| (1) 大映京都撮影所では前年、時代劇映画の製作本数は全体の半数を割っていて、過半数のものが明治もの・大正ものに転換していたが現代ものは1本も無かった。ところが昭22には全製作本数17本中、9本が現代劇映画・5本が時代劇映画、3本が明治ものというように過半数が現代劇映画になった。大映10年史 | (2) 大映・松竹・東宝は、憲法公布記念映画としてそれぞれ異なるテーマを分担して競作した。「壮士劇場」は自由民権を、「情炎」(松竹大船、渋谷実監督、佐野周二主演)は男女同権を、「戦争と平和」(東宝、山本薩夫・亀井文夫監督、伊豆肇主演)は戦争放棄をそれぞれテーマとしたもの。 | 1・一 日本最初のストリップショウ(新宿帝都座)。 | 3・1 久保栄<林檎園日記>初演(帝劇、東芸、～3・16)。公演後、久保との対立から滝沢修・森雅之・信千代の3幹部脱退。 |
| (3) この頃、職場演劇盛ん。この年活躍したアマチュア劇団は、全通京都地方簡易保険局支部文化部演劇研究会平進堂平版部 京電京劇団 京都醤油統制演劇部 島津本社三条劇研 日本冶金伏見工場演劇部 京都療養所職組劇団 日本電池本社演劇部 第一工業劇研シャボン座 日本冶金京都支部演劇部 鐘紡京都工場演劇部 | | 4・8 新宿にムーラン=ルージュ再開。 | 4・22 関西交響楽団〔関響〕第1回演奏会(朝比奈隆・JOBK 管弦楽団員による、大阪朝日会館)。 |
| | | 6・一 北条秀司<王将>第1部初演(有楽座、新国劇30周年記念)。 | 6・一 能役者喜多太平太、芸術院会員となる。 |
| | | 7・21 今井慶松没(明治4生、77歳、山田流箏曲家)。 | 7・28 滝沢修・森雅之・宇野重吉・岡倉士朗ら、民衆芸術劇場〔民芸〕結成。 |
| | | 7・一 東横映画(株)、映画製作を開始。 | 9・20 関西自立楽団協議会結成。 |
| | | 9・30 4世柳家小さん没(明21生、60歳、落語家)。 | 10・28 東宝交響楽団第1回定期演奏会(近衛秀麿指揮、ベートーヴェン<第1交響曲><第2交響曲>など、日劇)。 |
| | | 11・8 国立劇場設立準備機関として演劇文化委員会発足、第1回会合(河竹繁俊・土方与志・藤原義江・森岩雄ら)。 | 11・16 戦後初の全国児童唱歌ラジオコンクール開催。昭24・11・20中学校の部を加え、全国唱歌ラジオコンクールと改称。 |
| | | 11・一 連合軍より禁止中の<仮名手本忠臣蔵>の通し狂言、上演許可され東京劇場で興行(歌舞伎の全面的上演禁止解除)。 | 12・1 演劇・映画等の入場税15割実施。各関係者の反対運動行われ、昭25・3・1シャープ勧告により10割に軽減。 |
| | | 12・4 帝国芸術院、日本芸術院と改称。 | 12・12 新作曲派協会第1回発表会(毎日ホール、早坂文雄・清瀬保二・松平頼則らにより10・7結成)。 |

昭22(1947)年

| 京 | 都 | 府 |
|-------|--|---|
| 10・10 | 入場税引上反対大会（日映演・全映演 興行協会・会社側の共同で松竹座にて開催）。 京都 10・6 | 12・23 和辻春樹らの邦楽舞踊研究会第1回公 演(西川鯉三郎ら、先斗町歌舞練場)。京都 12・18 |
| 10・17 | 曾我廼家五郎劇（南座）。京都 | 12・— 池坊華道会館（財）設立。 |
| 10・17 | 金剛謹之輔25回忌追善能（金剛）、11・ 23観世清廉37回忌追善能（西本願寺能舞台）。 京都 10・15、11・24 | |
| 10・19 | 関西交響楽団<関響> 京都初演奏会 （朝比奈隆指揮、ドボルザーク「新世界」ほか、 栄光館）。京都 10・20 | |
| 10・20 | 京都文化団体協議会、農村文化との交 流をはかるため府下文化団体と連絡会議を開催 （市民会館、～10・21）。京都 10・23 | |
| 10・20 | 勤労者演劇コンクール（京都新聞会館、 ～10・22）。 ⁽³⁾ 京都 10・20 | |
| 10・23 | 俳優座京都公演（京都新聞会館、～10・ 25）。京都 10・1 | |
| 10・24 | 吉田栄三郎没（38歳、文楽人形遣い）。 演劇年鑑 1949 | |
| 10・25 | 第1回音楽コンクール（京都市・京都 放送局・音楽クラブ共催、府一女）。 京都 7・21、10・1 | |
| 11・11 | 東西名流落語大会(南座)。京都 11・6 | |
| 11・— | 片山愛子、4世井上八千代を襲名。11・ 16披露舞踊会（祇甲歌舞練場、～11・24）。 京都 11・14 | |
| 11・20 | 京都学生合唱演奏会（華頂）。 京都 11・20 | |
| 11・23 | 十郎・雁玉の新劇団第1回公演「アメ ダマ五千貫」ほか（京都座）。京都 11・27 | |
| 11・29 | 日映演京都支部大会、映画演劇の生産 復興・質的向上を決議。朝日 12・2 | |
| 12・3 | 顔見世。菊五郎・梅玉一座「伽羅先代 萩」ほか（南座、入場料170～50円、6世菊五郎 京都最後の舞台～27）。京都 12・4 | |
| 12・5 | 近畿音楽教育連盟結成（理事長中原都 男）。昭23・5・18日本音楽教育連盟西部へ発展。 京都音楽史 | |
| 12・8 | 京大音楽部々室焼失。 京大音楽部沿革史 | |
| 12・9 | 毛利菊枝演劇研究所第1回公演（華頂 会館、～12・10）。京都 12・9 | |
| 12・13 | 井上嘉助、強制疎開のため解体されて いた能舞台嘉祥閣を明倫小に寄贈。京都 12・29 | |
| 12・14 | 同志社交響楽団復活第1回定期演奏会 （宮本政雄指揮、「セビラの理髪師」ほか、栄光 館）。京都 12・16、朝日 12・11 | |
| 12・17 | 京都市、文化課を拡充強化して文化局 新設（初代局長光田作治）。京都 12・12 | |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|---|---|---|---|
| | | | |

昭23(1948)年

| 京 | 都 | 府 |
|--|---|--|
| 1・11 藤原義江歌劇団演奏会(栄光館、～1・12、演奏3,000回記念)。 京都 1・8、10、19 | | 5・25 府文化委員会発会。 京都 5・25 |
| 1・26 天中軒雲月改め伊丹秀子改名披露浪曲大会(南座、～1・27)。 京都 | | 5・28 「夜の女たち」封切(松竹京都、溝口健二監督、田中絹代主演)。6・3上映館、京都市警の勧告により未成年者入場制限。 京都 6・4 |
| 2・1 寿美蔵・延若一座、GHQ解禁の「仮名手本忠臣蔵」(ただし、討入はなし、南座、大阪歌舞伎座の猿之助一座と競演、2世延若京都最後の舞台)。 松竹70年史 | | 6・1 東西合同歌舞伎。寿美蔵・寿三郎一座藤村原作「破戒」ほか(南座)。 京都 6・6 |
| 2・7 毛利菊枝演劇研究所第1回<小さい劇場>、岸田国士作「ぶらんこ」、山本有三作「海彦山彦」(毎日会館)。(1) 京都 2・5 | | 6・3 井上八千代・佐多、花友会の招待で東上演(新橋演舞場)。6・28先斗町名取3名、藤間亀三郎改め2世尾上菊之丞襲名披露公演に東上演(新橋演舞場)。 演劇年鑑 1949、京都 3・13、6・6 |
| 2・8 人形劇団アーク京都初公演、中江良夫作「生活の河」ほか(京都座)。 京都 2・10、19 | | 6・13 京都高校演劇協会設立。7月京都高校映画連盟設立。 京都 6・15、映画年鑑 |
| 2・17 京極松竹、京極大映と改称。 京都 2・11 | | 6・26 牧嗣人歌劇団京都初演奏会(華頂、～6・27)。 京都 6・26 |
| 2・21 自由華道苑発足(小糸不挿庵ら、家元制再検討を主張)。 京都 2・23 | | 7・3 東西合同歌舞伎、雁治郎・我当一座「二蓋笠柳生実記」通し(南座)。 |
| 3・5 西川鯉らの曙会第1回(先斗町歌舞練場)。 京都 2・29 | | 7・17 祇園祭。船鉾・北観音山巡行。 祇園祭 |
| 3・14 京都新演劇人協会発会。 京都 3・14 | | 7・21 東京で空前の興行記録をあげた空気を、田村泰次郎原作・小崎政房脚色「肉体の門」京都公演(京都座)。 |
| 3・30 「手をつなぐ子等」封切(大映京都、稲垣浩監督、笠智衆主演)。 大映10年史 | | 7・一 独立プロえくらん社創立(社長松本常保)。12・7第1作「明日は日本晴れ」封切(清水宏監督、水島道太郎主演)。(3) 映画年鑑 |
| 3・一 田中八州、八州流を創始。 京展20年の歩み | | 8・3 日映演松竹京都座館分会、生活補給金を要求してスト突入。8・6会社側、組合の要求を受け入れたので解決。 京都 8・3、6、7 |
| 4・11 安川加寿子ピアノ独奏会(府一女、戦後関西初)。 京都 4・3 | | 8・5 文楽座人形浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」通し(南座)。 京都 8・3 |
| 4・14 京都音楽団体協議会発足。 京都 4・28 | | 8・11 橋家太郎・菊巻らの渡米漫才団試演(京極演芸館)。 京都 8・10、14 |
| 4・17 陽明文庫保存会設立記念文化祭に金剛巖ら出演。 京都 4・13 | | 8・一 クロイツァー著『装飾音』刊(文化書院)、長広敏雄著『音楽論ノート』園部三郎著『音楽史の断片』刊(三一書房)。 京都 8・25 |
| 4・一 戦時下中絶の京都音楽協会新発足(会長稲畑登美)。4・19第1期第1回例会として井口基成ピアノ独奏会(府一女)。以後昭25・12・20まで存続。(2) 音大紀要 11 | | 8・一 京都芸術劇場(劇団京芸)発足。 新劇京都創刊号 |
| 4・22 京都の作曲家中瀬古和らの発表会(日仏会館)。9・22中瀬古和発表会(栄光館)。 京都 4・22、9・19 | | 9・2 新国劇、北条秀司作「王将」ほか(南座)。 京都 9・7 |
| 4・29 京都放送絃楽団・合唱団第1回発表会(指揮中村良治・中川牧三)。 京都 4・28 | | 9・7 春日野百合子襲名披露浪曲大会(京都座)。 京都 9・7 |
| 5・3 日本宗教音楽大演奏会(関響、東本願寺)。 京都 5・4 | | 9・11 花形大歌舞伎。嵐吉三郎・松本錦吾一座「四谷怪談」大入り(京都座)。 京都 9・11 |
| 5・11 文化座京都初公演、チェホフ「結婚申込」ほか(京都座)。 京都 5・11 | | 9・29 長門美保歌劇団(南座、～9・30)。 |
| 5・12 梅若会定式第1回能(金剛)。 同上 | | 9・30 京都市会、市立堀川高校音楽課程創設を可決(日本最初の公立高校音楽課程)。10・20発足。 京都音楽史 |
| 5・17 戦後京都初の日響演奏会(尾高尚忠指揮、ソロ江藤俊哉、チャイコフスキー「悲愴」ほか、松竹座)。 京都 5・16、NHK交響楽団40年史 | | 9・一 茂山千作東上。芸術祭で「枕物狂」を舞い文部大臣賞受賞。昭24・2・6記念能楽会(金剛)。 狂言80年、京都 2・7 |
| 5・18 京都市、大衆音楽向上をめざし毎週火曜・円山音楽堂で火曜コンサートを開催。 京都 5・16 | | |

| 京 | 都 | 府 | 日 | 本 |
|--|---|---|--|---|
| 10・1 戦後京都初の東宝交響楽団<宝響>演奏会(近衛秀麿指揮、ピアノ井口基成、ブラームス第1ほか)。 京都 10・4 | | | 1・2 民衆芸術劇場第1回公演、島崎藤村原作・村山知義脚色演出<破戒>初演(有楽座)。 | |
| 10・3 東宝撮影所劇団公演「酔ひどれ天使」(志村喬・三船敏郎ら、南座)。 | | | 3・4 山本安英・木下順二らのぶどうの会(昭22・4・11命名)第1回勉強会、木下<彦市ばなし>初演(毎日ホール)。 | |
| 10・4 京都市文化局、勧光局となる(昭27・1・30まで存続)。 京都市会史 | | | 3・6 菊池寛没(明21生、61歳)。 | |
| 10・12 昭15より中絶の牛祭復活。 京都 10・8 | | | 3・18 新橋演舞場、再建開場式(3・21より<東おどり>復活上演)。 | |
| 10・17 薩摩・筑前諸流により結成された京都琵琶文化協会、全琵琶公演大会を主催(吉岡旭聰・山田鶴水ら、顕道会館)。 京都 10・16 | | | 3・25 真山青果没(明11生、71歳)。 | |
| 10・17 豊国350年祭。10・18～21献茶式(豊国神社)。10・22大能会(東本願寺舞台)。 京都 10・19 | | | 4・26 新東宝(株)設立。 | |
| 10・18 「王将」封切(大映京都、伊藤大輔監督、阪東妻三郎主演)。 大映10年史 | | | 5・19 文楽座座員80人余、労働組合を結成。 | |
| 10・18 全日本名流邦楽と舞踊会(藤間勘素娥・花柳輔葉・西川鯉・藤間良輔・五条珠実・花柳寿輔・坂東三津五郎・常盤津文字太夫・清元梅寿太夫、先斗町歌舞練場)。 京都 10・19 | | | 5・一 GHQ民間教育情報局演劇班の仲介により、米国現代作品約60編の上演許可。 | |
| 10・21 第1回幽花会(片山九郎衛門宅)。10・23 6世大江又三郎襲名披露能(大江)。 京都 10・20 | | | 7・3 勤労者演劇協同組合〔労演〕結成(勤労者の共同鑑賞組織、千代田生命講堂)。昭24・2大阪に勤労者演劇協会結成。 | |
| 10・24 土佐太夫をしのぶ会(土佐広・伊達ら、京都新聞会館)。 京都 10・19、22 | | | 8・21 初の日本芸術院賞授賞式(伊東深水・折口信夫・藤原義江・杉村春子・芝祐泰・野口兼資)。 | |
| 10・一 池坊華道文化会館竣工。 京都年鑑 1950 | | | 9・13 舞台芸術学開校式(院長秋田雨雀)。 | |
| 10・下 京都市、第3回市民文化祭一部行事中止を発表。昭21より3年継続した市民文化祭もこの年を最後に姿を消す。 京都 10・27 | | | 10・16 林謙三ら、正倉院の横笛・尺八を吹奏、奈良時代の音楽を再現(～10・20)。 | |
| 11・14 加藤ルリ子ピアノ京都初演奏会(鴨沂高)。 京都 11・12 | | | 11・1 曾我廼家五郎没(明10生、72歳、喜劇俳優)。残された一座に曾我廼家十吾を加え松竹新喜劇を結成、12・1より大阪中座で初公演。 | |
| 11・19 毛利菊枝演劇研究所改めくろみ座公演内村直也作「青春」(早川道夫演出、京都新聞会館)。 京都 11・17 | | | 11・23 第1回全日本合唱コンクール。 | |
| 11・19 観世流梅若派に女流師範誕生。奥村富久子「菊慈童」。 京都 11・20 | | | | |
| 11・23 同志社グリークラブ、第1回会日本合唱コンクール学生部の部に入賞。 音楽年鑑 1950 | | | | |
| 12・4 顔見世、吉右衛門一座に雁治郎ら、「鏡山旧錦絵」ほか(南座、入場料380～80円)。 | | | | |
| 12・6 「破戒」封切(松竹京都、木下恵介監督、池部良主演)。松竹東西撮影所交流により、木中恵介・吉村公三郎らが京都で仕事を初め、京都映画界に好刺激となる。 松竹70年史 | | | | |
| この年 | | | | |
| ▷ サカブライト楽器(株)創立。楽器販売にあたる。 京都音楽史 | | | | |
| | | | 参 | 考 |
| | | | (1) <小さい劇場>は、本公演とは別に小劇場向きの作品を選び上演する公演で、当初は演出企画梅本重信・参与田口竹男のスタッフではじめられ、昭和46・5までに公演回数37回をかぞえる。この間、森本薫「一家風」「退屈な時間」、田口竹男「翁家」、ジャン・コクトー「聖なる悪魔」、マルグリッド・デュラス「セーヌ・エ・オワーズの陸橋」、ベケット「クラップの最後のテープ」、三島由紀夫「灯台」など上演。 演劇年鑑 1949、京都 昭46・4・21 | |
| | | | (2) 京都音楽協会は、会員を募り内外の著名音楽家紹介・毎月1回定期音楽会の開催等をはかる。京都音楽協会例会記録は中原都男「京都音楽史」(『音大紀要11』昭38・12)にくわしい。 | |
| | | | (3) えくらん社は、昭24・8・1大泉スタジオを使って第3作「白鳥は悲しからずや」を製作完成したが経営難におちいり、その後は芸能人斡旋業などに転じ映画製作からは遠のく。 日本映画発達史 III | |

昭24(1949)年

| 京 | 都 | 府 |
|---|---|---|
| 1・1 東西合同歌舞伎。寿美蔵・寿三郎一座「仮名手本忠臣蔵」(南座、詩入なし)。京都年鑑 1950 | 4・一 第1協団映画(株)創立。映画年鑑 | |
| 1・1 茂山千作、第2回京都文化院文化賞受賞(舞台生活80年の業績)。同上 | 5・1 新結成松竹新喜劇京都初公演「丘の一本杉」ほか(南座)。京都年鑑 1950 | |
| 2・2 新生新派「金色夜叉」ほか(南座)。同上 | 5・2 不審庵・今日庵(財)設立。淡交 昭40・9 | |
| 2・一 京都市警察音楽隊結成。昭31府警音楽隊となる。京都 昭46・4・22 | 5・6 京都労働会館竣工(寺町四条下る、新劇試演舞台として活用される)。映画年鑑 1950 | |
| 3・1 能楽共済会設立(会長金剛巖、目的は能楽師の相互扶助)。昭26・6京都能楽会と合体。京都年鑑 1950 | 5・7 京都市制60年記念京舞と能狂言の夕(円山)。京都 5・1 | |
| 3・4 東西合同歌舞伎。雁治郎・簗助ら「勸進帳」ほか(南座、大阪歌舞伎座と競演)。同上 | 5・30 エランビタール復活第1回公演(加東大介・葛木香一・常盤操子ら、演出野淵昶・佐藤善人、「賢女気質」ほか、京都座、～5・31)。日本新劇史、京都 5・30 | |
| 3・15 桑原専溪・辻井弘州・永井華風・西阪専慶・長谷川菊州、紫紅社を結成。第1回そう花試作展(池坊華道会館)。京都 3・16、8・14 | 5・30 東横京都撮影所第1トーキーステージ焼失。京都 6・1 | |
| 3・21 杉浦義明還暦祝賀能(金剛)。京都年鑑 1950 | 5・一 同志社音楽協会創立(奥村竜三)。6・25ドビュッシーの午後(浅野千鶴子・野辺地瓜丸ら)。映画年鑑 1950 | |
| 3・下 祇園乙部、東新地と改称。歌舞練場も祇園会館として落成。3・21～26記念温習会。京都 3・21 | 6・2 東西合同歌舞伎・雁治郎・我当一座「安政の黒船」ほか(南座、サビエル渡来400年記念)。京都 6・2 | |
| 3・31 京都市音楽団、京都市財政の窮乏に伴い解散。4・27京都市音楽団員27名、京都市教委事務局に配置転換(新制小・中学校のリズム教育指導員任命)。京都 3・17、27、4・28、7・10 京都市会史 | 6・5 長唄君和会創立20周年記念会(杵屋君初ら、先斗町歌舞練場)。京都 6・3 | |
| 4・1 京都市公立諸学校リズム教育実施。京都市文教局、市立中学校40校・小学校131校に楽器現物支給。7・6京都市器楽教育設置記念演奏会(円山)。京都音楽史 | 6・16 原智恵子・辻久子・吉田貴寿ソナタとトリオ(松竹座)、諏訪根自子・井口基成ソナタの夕、競演。京都 6・7、7・10 | |
| 4・6 諸井三郎著『音楽の精神』刊、昭25・5・1『若き音楽人のために』刊(ともに北大路書房)。戦後音楽教育解説書の先駆的出版。京都音楽史 | 6・19 京都労働組合映画協議会結成(＜京都労映＞の出発点)。5・25準備会。6・19発会式(文化会館)。9・17映画サークル協議会結成。京都 5・26 | |
| 4・7 更生20周年記念沢田祭。新国劇に利根はるゑ「殺陣師段平」ほか(南座)。京都年鑑 1950 | 6・27 六花街舞踊大会(南座、～6・28)。京都 6・16 | |
| 4・10 文化財保存費を得る目的の第1回観能会(金剛巖ら、京都市観光課・観光連盟主催、西本願寺)。京都 4・2 | 7・10 鴨川踊、大阪歌舞伎座出張公演。京都 5・16 | |
| 4・20 京映、SY京映と改称。京都 4・15 | 7・13 天の橋立カーニバル実施。京都年鑑 1950 | |
| 4・26 連如上人450回忌法楽能(金春光太郎・片山九郎右衛門・金剛巖ら、東本願寺)。能楽思潮 40-41 | 7・14 前進座「真夏の夜の夢」(日本共産党主催、先斗町歌舞練場、～7・16)。入場税不払、問題となる。京都 7・26、28 | |
| 4・29 中瀬古和らの創現会第1回研究発表会(鴨沂高)。京都 4・28 | 7・17 祇園祭、山鉦9基巡行。祇園祭 | |
| 4・一 阪東妻三郎・片岡千恵蔵、大映との契約を打ち切り他社出演。嵐寛十郎・市川右太衛門、一本契約の形で大映に残り他社出演にも乗り出す。映画年鑑 1950 | 7・18 舞鶴ミナト祭開始。京都年鑑 1950 | |
| 4・一 テアトロ・トフン結成、5月第1回公演。演劇マンスリ 1号 | 7・19 京都東洋現像所全焼。京都 7・20 | |
| | 8・8 京都華道芸術協会(社団)発足(小野則秋・西阪専溪ら在洛35流)。8・17夏季華道芸術大学を同志社で開催。京都 8・14、京都年鑑 1950 | |
| | 8・一 岩田直二・谷ひろし・田中勝春ら演劇講習会(和風書院、～11月)終了後、講習参加者を結集して京都芸術劇場結成。 ⁽¹⁾ 12月京都芸術劇場・劇団トフン合同第1回公演「彦市ばなし」(労働会館)。「絹屋佐平治」公演プログラム、「土ぐも」プログラム | |

| 京 | 都 | 府 | 日 | 本 |
|---|---|---|---|---|
| 9・3 東西合同歌舞伎。市川寿海襲名披露興行。寿美蔵改め寿海・寿三郎一座「大森彦七」ほか(南座)。京都年鑑 1951 | 9・中 京都市教委、移動映画教室新設。京都 9・15 | | 1・27 7世松本幸四郎没(明治3生、80歳)。 | |
| 9・一 嵯峨末生流、華道芸術院設立。10・一御室御流、花友会設立。京都年鑑 1951 | 9・一 『観世』復刊(桧書店)。能楽思潮 40-41 | | 1・一 木下順二<夕鶴>(≪婦人公論≫、10月丹波市天理教講堂でぶどうの会初演、昭25・1東京初演)。 | |
| 10・1 新国劇、北条秀司作「ぼんぼん」好評(南座)。松竹70年史 | 10・1 第1回宇治茶祭(表裏千家協賛、平等院・興聖寺・中之島にて開催)。茶の湯50年 | | 3・2 7世沢村宗十郎没(明8生、75歳)。 | |
| 10・8 松竹京都太秦撮影所第3ステージ全焼。京都 10・9 | 10・16 「痴人の愛」封切(大映京都、木村恵吾監督、2月にデビューした京マチ子の出世作)。日本映画発達史 III | | 3・7 前進座座員69人、共産党入党。 | |
| 10・23 稲畑勝太郎(京都音楽協会創立功労者)追悼音楽会(鴨沂高)。音大紀要 11 | 10・24 公衆会館開場。平安民主文化協会(財団)経営、新劇・音楽などを上演。京都 10・25 | | 3・10 第1回毎日演劇賞(俳優座・藤原歌劇団・小牧正英・実川延若・宮口精二・河野国夫)。 | |
| 10・一 長唄心泉会第1回。京都年鑑 1950 | 11・2 ぶどうの会京都初公演「夕鶴」(山本安英ら、公衆、～11・3)。京都 11・3 | | 3・一 東宝、自主製作打ち切り・新東宝依頼を決定、10月自主製作再開を宣言、これに対抗して11・13新東宝、自主配給を通告。昭25・3・20和議成立、それぞれ製作・配給を始める。 | |
| 11・一 『花』創刊。昭33、99号完。能楽思潮 40-41 | 11・21 京都座、秋のレコード祭を名残りに映画館に転向。 ⁽²⁾ | | 4・1 文部大臣招待第1回日本華道展。10・1関西展。 | |
| 11・一 府立医大交響楽団第1回定期演奏会。京大音楽部沿革史 | 11・一 この年 ▷ ピーチク・クラブ結成(上方落語愛好者ら)。毎日 昭46・5・13 | | 4・6 第1回伊庭歌劇賞決定(昭12・2・25没の伊庭孝を記念、藤原義江・三林亮太郎)。 | |
| 12・3 顔見世。猿之助・雁治郎一座「男女道成寺」ほか(南座、入場料450～80円)。 | | | 4・14 地人会(昭25・7・18結成)第1回作品発表会(毎日ホール、平尾貴四男・高田三郎・安部幸明・青島清彦ら)。 | |
| 12・4 「破れ太鼓」封切(松竹京都、木下恵介監督、阪東妻三郎主演)。京都 12・ | | | 5・31 東京美術学校・東京音楽学校、統合し、東京芸術大学として新発走〔法〕。 | |
| | | | 6・14 映連、CHQの要請により、映画製作倫理規程を作成、映画倫理規程管理委員会〔映倫〕発会式。 | |
| | | | 7・10 6世尾上菊五郎没(明18生、65歳)。 | |
| | | | 7・12 民衆芸術劇団員総会で劇団解散決定。昭25・12劇団民芸として再建、旗あげ公演。 | |
| | | | 11・24 関西勤労者音楽協議会発会式(朝日会館、昭25・8・15大阪労音と改称)。昭28・10・24東京労音結成第1回例会、昭30・9第1回全国労音連絡会議(大津)。 | |
| | | | 11・一 俳優座演劇研究所創立、付属俳優養成所開校(昭41・3解消し、4月桐朋学園短大演劇科発足)。 | |
| | | | * 幸四郎・宗十郎・菊五郎らの歌舞伎第一線俳優没し、歌舞伎の衰退目立つ。 | |
| 参 | 考 | | | |
| <p>(1) 昭24・3 頃川端丸太町の和風書院での演劇講習会参加者で劇団をつくる話が生まれ、名称は京都芸術劇場ときめた。12月労働会館で劇団トフンと合同で「彦市ばなし」を演出したのが京芸第1回公演となる。 「絹屋佐平治」公演プログラム岩田直二談</p> <p>(2) 京極の大衆劇場として親しまれた京都座が映画館に転向してしまったため、翌昭25年「正月の書入時にも京極で舞台に立っていた俳優は京極演芸館の五星座月丘松子らたった十人の淋しさ」という状態を招来した。京都年鑑 1951</p> | | | | |

| 京 | 都 | 府 |
|--|--|---|
| 1・1 松竹新喜劇。「續の出来事」ほか(南座)。 松竹70年史 | 5・19 京都合唱連盟新発足。7・2 第1回合唱祭(京大・同大・谷大・竜大・紫明合唱団など16団500人、円山)。 京都 6・30 | |
| 2・1 新生新派。郷田憲作「松川家妻吉」好評(南座)。 同上 | 5・23 第1回京都薪能(在京の能楽師総動員、京都能楽協会主催、平安神宮境内、～5・24、以後毎年継続)。 京都 5・24 | |
| 2・5 10世茂山千作没(87歳、大蔵流狂言師)。昭26・2・18、1周忌追善能(金剛)。昭26・9・1 茂山千作翁記念刊行会編『狂言八十年』刊(都出版社)。 京都 2・6、昭26・2・21 | 5・28 京都市立上京中学校吹奏楽部、文部省から招かれ東上演奏(京都市リズム教育の実績披露)。 京都音楽史 | |
| 2・11 京都芸術舞踊協会公演(石井漢・高田せい子ら、京都新聞ホール)。 京都 2・ | 6・3 京都学生能楽連盟能(同好学生参加、同連盟主催、金剛能楽堂、毎年継続)。 京都 6・5 | |
| 2・25 岩田直二作「一週間の記録」初演(京都芸術劇場、労働会館、～2・28)。 京都 2・27、3・3 | 6・17 「きけわだみの声」封切(東横太秦、関川秀雄監督、伊豆肇主演)。京都では学生団体鑑賞に限り初の免税興行。 京都 6・20 | |
| 2・26 邦楽舞踊協会公演(西川・井上・山村・阪東・若柳・花柳・藤間・榎茂都各流出演、先斗町歌舞練場)。 京都 2・19 | 6・一 南座、昭25上半期営業不振のもの多く戦前の半日興行へ逆行(～8月)。6・2 寿海・寿三郎一座。6・17 新派大合同(花柳・喜多村・水谷)。 京都年鑑 1951、松竹70年史 | |
| 2・28 裏千家々元千宗室の長男政興、若宗匠格(15代宗匠としての資格)授与。 京都 3・1 | 7・1 公楽会館、映画館に転向。 京都 6・24 | |
| 2・一 京都芸術文化「友の会」発走(中川牧三主宰)。関響と提携し毎月定期演奏会を行なう。2・23第1回関響定期演奏会。 京都年鑑 1951 | 7・19 杵屋藤吉没(35歳、長唄)。 京都年鑑 1951 | |
| 2・一 南大正座、東寺劇場と改称。 | 7・24 祇園祭後の祭山巡行復活。8・12 祇園会山鉦巡行運営委員会発足。9・15 同巡行協賛会、昭28・9・8 祇園祭協賛会に発展。 祇園祭 | |
| 3・5 「遙かなり母の国」封切(大映京都、伊藤大輔監督、早川雪洲帰朝第1作)。 | 7・24 松竹下加茂撮影所出火(同所347坪・付近民家250坪焼失、焼死1)。昭27・9・9 松竹、焼失後の下加茂撮影所を傍系の京都映画(株)に譲渡、製作の本流を太秦に移す。 京都 7・25、映画年鑑 1953 | |
| 3・25 貝谷バレー団京都公演。6・1 小牧バレー団京都公演(公楽)。8・25 谷バレー団京都公演(公楽)。 京都年鑑 1951、京都 6・1、8・18 | 7・一 くるみ座を出た早川道夫、喜劇座を結成。 京都 7・30 | |
| 3・一 『金剛』復刊(絵書店)。 京都 3・15 | 8・1 日数能(金剛、～8・8)。 京都年鑑 1951 | |
| 3・一 地唄萩原正吟開床30年記念会。尺八森田鸞山開軒30年記念会。 京都年鑑 1951 | 8・5 大江美智子一座(南座、幕間にストリップ出演)。この頃ストリップ最盛。 ⁽²⁾ | |
| 4・1 第77回都おどり。「京洛名所鑑」(7年ぶり復活。南座使用)。5月 第66回鴨川おどり、電気三味線採用。 京都 1・8、京都年鑑 1951 | 8・6 京都勤労者音楽協議会<京都労音>発足(自主的音楽鑑賞・勤労者自身の音楽活動・良心的音楽家との提携育成が目的、会員300人)。第1回例会(自由音楽集団、華頂)。 京都年鑑 1951、音楽年鑑 | |
| 4・1 堀川高校音楽課程に専攻科設置。 京都音楽史 | 8・18 武智鉄二演出の「勸進帳」「修禅寺物語」ほか、大当り(延二郎・養助一座、南座)。 松竹70年史 | |
| 4・1 東本願寺大谷光暢後援により創設された真美交響楽団第1回演奏会(指揮中村良治)。 京都年鑑 1951 | 8・21 大映京都撮影所第2ステージ焼失。 京都 8・23 | |
| 4・14 第1回華道京展(京都市・華道京展運営委員会主催、丸物、～4・23、審査展、以後毎年継続)。 ⁽¹⁾ 京都 4・14、19 | 8・26 「羅生門」封切(大映京都、黒沢明監督、三船敏郎主演)。昭26・9・10 ヴェニス映画祭でグランプリ受賞。日本映画の海外進出へ足がかり。 京都 昭26・9・12 | |
| 4・22 山本富士子、第1回読売新聞社募集ミス・日本に当選。 読売 4・ | | |
| 4・29 国際映画劇場開館。 京都 4・28 | | |
| 4・一 日本邦楽学校開校(兼安洞童主宰)。 京都年鑑 1951 | | |
| 5・13 京都自立劇団協議会演劇コンクール(華頂)。 京都 5・12 | | |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|--|--------------|------------|---|
| (1) 華道京展 | | 2・26 | 日映演自主作品<暴力の街>(山本薩夫)封切。これを基礎に2月伊藤武郎・今井正・山本ら、新星映画社設立。3月吉村公三郎・新藤兼人ら、近代映画協会結成。 |
| 第1回 | 昭25・4・14～・23 | 17流 | 90点出品 |
| 2 | 26・4・28～5・7 | 26 | 144 |
| 3 | 27・4・26～5・5 | 36 | 177 (1) |
| 4 | 28・4・18～・29 | 43 | 236 |
| 5 | 29・5・8～・21 | 36 | 140 |
| 6 | 30・5・7～・19 | 36 | 105 (2) |
| 7 | 31・5・29～6・4 | 38 | 154 |
| 8 | 32・5・25～・30 | 34 | 150 (3) |
| 9 | 33・5・17～・29 | 33 | 186 |
| 10 | 34・5・16～・21 | 37 | 188 |
| 11 | 35・5・14～・19 | 36 | 186 |
| 12 | 36・4・11～・16 | 34 | 204 (4) |
| 13 | 37・4・24～・29 | 34 | 204 |
| 14 | 38・4・9～・14 | 34 | 204 |
| 15 | 39・4・14～・19 | 34 | 204 |
| 16 | 40・4・13～・18 | 34 | 136 (5) |
| 17 | 41・4・13～・18 | 34 | 136 |
| 18 | 42・4・11～・16 | 36 | 144 (6) |
| 19 | 43・4・9～・14 | 36 | 144 |
| 注(1) 公募展。(2) 審査展復活。(3) 有料。(4) 会場が大丸。主催者に京都市観光協会が加わる。(5) 華道京展運営委員会に代って京都いけばな協会が主催者に加わる。(6) 本展のみ京都いけばな協会単独主催。 京展20年のあゆみ | | 9・29～10・18 | 第1回日本花道展(公募審査別、文部大臣賞設置)。 |
| | | 10・19 | ぶどうの会第1回公演(<夕鶴>ほか)。 |
| | | 10・28 | ラザール=レヴィ、ピアノ独奏会(日比谷、戦後初の来日外国人演奏会)。 |
| | | 11・2 | 第5回芸術祭に郷土芸能初参加。昭26 大衆芸能部門設定、徳川夢声受賞。 |
| | | 12・22 | 宇野重吉・滝沢修・清水将夫・岡倉士朗ら、劇団民芸再建(4・3)旗あげ公演(チェーホフ<かもめ>、西宮日芸会館、～12・26)、昭26・3、第1回公演。 |
| | | この年 | ▷ 勅使河原蒼風らによる<前衛いけばな>盛ん。 |
| (2) 昭27京都興行協会調査によると、ストリップのピークは昭25で、ストリップ劇場が京極だけで4館、毎月15万人もの客を吸収。京都 昭27・12・31 | | | |

昭25(1950)年

| 京 | 都 | 府 |
|--|---|--|
| 8・27 東京松竹歌劇団「東京踊り」ほか(南座、13年ぶり)。 京都 8・2 | | 12・20 京都音楽協会最終例会(関原和子独奏会、鴨沂高)。 音大紀要 11 |
| 8・一 花柳芳三嗣ら芸能新人クラブ結成。 京都年鑑 1951 | | 12・27 劇団民芸京都公演、チェホフ「かもめ」(宇野重吉ら、華頂、~12・28)。 京都 12・27 |
| 9・22 <レッド・ページ>の人員は松竹京都11人大映京都22人。 映画年鑑 1952 | | 12・27 京都劇場開館。 京都 12・21 |
| 9・一 舞鶴映画劇場、舞鶴日活映画劇場と改称。福知山日活館、福知山第1日活館と改称。福知山映画劇場、福知山第2日活館と改称。 日活50年史 | | |
| 10・1 寿海・寿三郎一座「菅原伝授手習鑑」通し(南座、15年ぶり、北野天満宮1050年大万灯祭奉賛記念)。 | | |
| 10・15 第1回京おどり「四季の色彩」(宮川町歌舞練場、~10・21、以後毎年継続)。 京都 10・13 | | |
| 10・17 ラザール・レヴィ、ピアノ独奏会(松竹座、戦後初の来日外人演奏会、安川加寿子・原智恵子賛助出演)。 音楽年鑑 1952 | | |
| 10・22 京都国際文化観光都市建設法公布。11月第1回文化観光祭。新劇・邦舞・能楽・洋楽・歌舞伎等参加。 京都 10・27 | | |
| 10・22 時代祭復活(7年ぶり)。10・22鞍馬火祭復活(7年ぶり)。 | | |
| 10・28 くるみ座公演。イブセン「幽霊」(毛利菊枝ら、京都新聞ホール、~10・29)。 京都 10・27 | | |
| 10・29 松本佐多、谷崎潤一郎作詞「蓬生」初演(南座、~10・30、3世井上八千代13回忌追善舞踊会)。 京都 10・24、29 | | |
| 10・一 日本舞踊学校開校(若柳吉兵衛主宰)。 昭26・6・26第1回発表会(南座)。 京都 昭26・6・27 | | |
| 11・15 ヒジ小池独唱会(松竹座)。 京都年鑑 1952 | | |
| 11・22 前進座と語る集会(京大演劇研究会主催、京大吉田分校)川端署が立会いを要求し<川端署事件>惹起。 京都 11・26、28 | | |
| 12・2 顔見世。吉右衛門・時蔵一座「河内山」ほか(南座、入場料550~100円)。 | | |
| 12・3 壬生狂言の4派合同(中堂寺衆・壬生住人衆・三条台若中衆・壬生若中衆、50年ぶり)。 京都 12・3 | | |
| 12・4 華道超流派研究座談会(白東社主催、聖護院門跡)。 京都年鑑 1952 | | |
| 12・10 マタイ受難楽演奏会(栄光館)。 音楽年鑑 1952 | | |
| 12・19 10世豊竹若太夫襲名披露文楽(宮川町歌舞練場)。 京都 12・18 | | |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|---|---|---|---|
| | | | |

| 京 | 都 | 府 |
|--|---|---|
| 1・1 松本佐多、第4回京都文化院文化賞受賞(京舞につくした功績)。京都年鑑 | | 5・15 13世片岡仁左衛門襲名東西合同大歌舞伎。寿海・仁左衛門・寿三郎、「弥栄縁松竹・祇園社頭の場」ほか(南座、松竹創立30周年記念)。京都 5・18 |
| 1・10 成安学園会館開館、鈴木基乃独唱会。京都 1・9 | | 5・一 北野会館新築(上七軒)。5・24~28記念公演。京都 5・22 |
| 1・14 千宗興、茶道普及のため渡米。11・26帰洛。12・5 帰朝記念茶会。京都 11・27 | | 5・下 長谷川菊洲、華道使節として渡米。11・2 帰洛。12・1~3 行脚展(丸物)。京都 5・14、11・3、4、12・1 |
| 1・15 諏訪根自子・晶子姉妹演奏会(栄光館)。京都 1・1、16 | | 6・4 ジョゼフ・ローゼンストック指揮の日響演奏会(京劇)。11・25クルト・ヴェス指揮のNHK交響楽団<N響>演奏会(京劇)。京都 5・29、11・24 |
| 1・15 梅屋勤兵衛没(69歳、鳴物)。京都年鑑 1952 | | 6・15 京都市警保安部、京極演芸館のショウ「エロス・エロトリア、腰抜けエロラティーフ」をわいせつ罪容疑で戦後初の上演禁止勧告。京都 6・17 |
| 1・31 ベートーヴェン連続演奏会第1回(山田和男指揮、大放響、公衆)。京都 1・26 | | 6・15 東横映画、「きけわだつみの声」封切。東映10年史 |
| 2・25 邦楽舞踊大会(煤茂都陸平ら、先斗町歌舞練場)。京都 2・25 | | 6・19 すわらじ劇団公演、倉田百三作「布施太子の入山」(京都新聞ホール、~6・21、劇団創立20周年記念)。京都 6・19 |
| 2・25 劇団こうもり座第1回公演。同上 | | 7・1 嵐三右衛門ら劇団新潮結成公演「夫婦善哉」ほか(南座)。同劇団は11月興行(南座)を最後に解散。京都 7・1 |
| 3・8 京都府・市の観光連盟を1本化して京都観光連盟設立。 | | 7・12 松竹太秦撮影所開所。製作の主流を下加茂より移す。6・20竣工(6,800坪、4ステージ)。松竹70年史 |
| 3・14 女流京華会復活第1回(高島屋、以後毎年継続)。京都 3・10 | | 7・13 東京交響楽団<東響>関西初演奏会(指揮近衛秀麿・上田仁・斎藤秀雄・朝比奈隆、京劇)。音楽年鑑 |
| 3・16 竹沢藤四郎没(84歳、義太夫)。京都年鑑 1952 | | 7・15 藤山於菟路作詞・諸井三郎作曲「京都市歌」制定公布。7・28 都新聞花火大会会場で発表。京都音楽史 |
| 3・21 金剛巖没(65歳、24世金剛流宗家)。4・14 追悼能(東本願寺)。昭28・5『初代金剛巖追善能誌』刊(松書店)。京都 3・22、4・15、昭28・5・8 | | 7・17 祇園祭。山鉦18基戦前どおりのコース巡行。7・10山鉦倒壊し巡行不能。7・24山9基戦後初の勢ぞろい。祇園祭 |
| 3・一 都山流55周年記念演奏会(京都新聞ホール)。京都年鑑 1952 | | 7・19 クロイツァー在日20年記念演奏会(関響、京劇)。音楽年鑑 |
| 4・8 堀川高校音楽課程、出雲路分校に移転。京都音楽史 | | 7・一 太千興業(株)設立。昭28・2 第1作「絵本猿飛佐助」(森一生監督)。映画年鑑 |
| 4・8 日本映画俳優協会(社団)発足。ラクヨー・ホテルで設立総会。 ⁽¹⁾ 映画年鑑 1952 | | 8・1 谷崎潤一郎作・武智鉄二演出「恐怖時代」戦後初演。血みどろの殺し場、話題をよぶ(延二郎・扇雀・鶴之介ら、南座)。京都年鑑 1952 |
| 4・8 西条八十作詞・古賀政男作曲「京都音頭」発表会(京都市主催、円山)。京都 2・7、4・9 | | 8・5 京都文楽会結成(会長坂内義雄)。8・17 文楽座引越興行(豊竹山城少掾・吉田文吾郎ら、南座、~8・26)を主催。 ⁽²⁾ 京都 8・10 |
| 4・8 醍醐茶会、三千家奉賛。京都年鑑 1952 | | 8・9 壬生寺六斎念仏復活(15年ぶり)。8・23 花背松上げ行事復活。京都 8・9、20 |
| 4・20 池坊高等華道院創設。華道 昭26・7 | | |
| 4・23 歌劇「カヴァレリア・ルスチカーナ」公演(大放響、中川牧三指揮、五十嵐喜芳ら、公衆)。京都 4・22 | | |
| 4・29 24世観世左近13回忌追善能(観世華雪・片山九郎右衛門・大江又三郎ら、金剛)。京都 5・1 | | |
| 4・一 東映京都撮影所(株)設立。4日ニューマキノ(株)設立。京都年鑑 1962、映画年鑑 | | |
| 5・1 ヤサカランド劇場、市民劇場グランド会館と改称。演劇・映画・音楽等上演。京都 5・1 | | |
| 5・1 文字大夫没(常盤津家元)。京都年鑑 1952 | | |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|---|---|--|---|
| (1) 契約スターも対税策や映画界の変動に対処して職能組合的組織の必要に迫られていたが東西の足並みが揃わなかった。設立準備委員の一人月形竜之介の提唱で、昭25・7 関西側のみで仮発足。所得税の必要経費査定額引上げなど対税策で成果をあげ、昭26・2・4 時代劇8スターで発起人会を開き、4月8日設立総会を発足させたのである。会員数65名。役員=(理事)阪東妻三郎、長谷川一夫、市川右太衛門、大河内伝次郎、片岡千恵蔵、高田稔、嵐寛寿郎。俳協は発足以来、東京側スターに参加をよびかけ7月東京支部結成。映画年鑑 | | 1・3 歌舞伎座復興開場式。 | |
| (2) 京都文楽会。在洛の文楽愛好家が集まり、文楽の保存復興・啓蒙発展を図るため、事務局を都新聞社内に置き発足した。全国に刺激を与え、結成後1年間に東京・大阪でも結成された。京都年鑑 1952、1953 | | 2・3 三越劇場現代劇第1回公演(コクトオ<声>、田中千禾夫<おふくろ>など、文学座、杉村春子ら、~2・5)。 | |
| (3) 「戦後メニューヒンが世界的楽人として最初に訪れたときは千五百円の切符が飛ぶように売れ、七千円から一万円のプレミアムもついた」京都 29・1・22 | | 2・6 帝劇第1回ミュージカル、秦豊吉製作・菊田一夫作<モルガンお雲>上演(越路吹雲・古川緑波主演、~3・27)。11・29~12・30<お軽と勘平>。 | |
| | | 2・16 尾高尚忠没(明39生、39歳、指揮者・作曲家)。3・5 尾高くフルト協奏曲>初演(日響、F1.吉田雅夫)。昭27・9 尾高賞制定。 | |
| | | 2・22 2世実川延若没(明10生、73歳)。 | |
| | | 3・21 <カルメン故郷に帰る>(松竹、木下恵介監督、高峰秀子主演)封切。フジカラーによる日本最初の色彩劇映画。 | |
| | | 3・21 金剛巖没(明19生、64歳、24世金剛流宗家)。 | |
| | | 4・1 東映(株)発足(社長大川博、東横・大泉・東京映画配給3社合併による)。 | |
| | | 4・一 日本最初のLPレコード、コロムビアから発売(ベートーヴェン<第9交響曲>)。 | |
| | | 5・23 日響の招いたローゼンストック来日(~6・28)。9・13 常任指揮者として招いたクルト=ヴェス(墺)来日(~昭29・8・14)。 | |
| | | 6・一 加藤道夫<なよたけ抄>初演(新橋演舞場、市川海老蔵・尾上松緑ら、完全上演は昭30・10 文学座)。 | |
| | | 8・1 日本交響楽団、NHK交響楽団〔N響〕と改称。 | |
| | | 9・16 三好十郎<炎の人>初演(新橋演舞場、民芸、滝沢修主演、~9・28、10~11月と12月三越劇場で再演、9月<群像>)。 | |
| | | 9・18 メニューヒン、ヴァイオリン独奏会(日比谷)。 | |
| | | 9・26 日本最初の円形劇場で試演(早大隈小講堂、~9・28)。 | |
| | | 11・9 江藤俊哉、カーネギーホール(ニューヨーク)に出演。 | |
| | | 12・27 セントラル映画社解散、米国映画各社、自主配給を開始。 | |

| 京 都 府 |
|---|
| <p>8・一 都新聞社ニュース映画部設立。 京都年鑑 1954</p> <p>9・11 京極演芸館、京極小劇場と改称。 京都 9・11</p> <p>10・5 世界的巨匠ユードー・メニューヒン、 ヴァイオリン演奏会（ベートーヴェン「クロイツ ェルソナタ」ほか、京劇）。10・13ヴァイオリン演 奏会（関響、朝比奈隆指揮、ブラームス「協奏曲」 ほか、京劇）。⁽³⁾ 音楽年鑑</p> <p>10・6 鶴沢友治郎没（78歳、義太夫）。 京都 10・9</p> <p>10・23 草月流、高島屋に進出し流展を開く （～10・24）。東京センス流入。 京都 10・24</p> <p>10・一 松永和三郎7回忌追善邦楽会。 京都年鑑 1953</p> <p>10・一 「能楽選書」刊行開始（桧書店）。第1 冊栗林貞一著『漱石と謡曲』。 同上</p> <p>11・2 近畿音楽文化協会設立。 京都 11・3</p> <p>11・2 「源氏物語」封切（大映、吉村公三郎 監督、長谷川一夫主演、大映10周年記念）。カメ ラマン杉山公平、カンヌ映画祭最高撮影賞受賞。 東映10年史、京都 昭27・5・10</p> <p>11・4 山田太郎改め佐兵衛襲名披露能（金 剛）。11・11金剛滋夫改め2世巖襲名披露能（金剛）。 能楽思潮 40-41、京都 11・12</p> <p>11・4 京都合同バレエ祭（在洛11バレエ団、 グランド劇場）。 京都 11・5</p> <p>11・13 壬生狂言東上、芸術祭参加。 京都 9・27</p> <p>12・3 顔見世。6世中村歌右衛門襲名披露。 吉右衛門・歌右衛門・時蔵ら「沓手鳥孤城落月」 ほか（南座、入場料750～100円）。 京都 11・17</p> <p>12・24 ラジオ京都<KHK>開局。 京都 12・24</p> |

| 参 考 | 日 本 |
|-----|-----|
| | |

| 京 | 都 | 府 |
|---|---|--|
| 1・20 邦楽を楽しむ会発足(堂本寒星ら)。 邦楽のあゆみ | | 4・17 「西陣の姉妹」(大映、吉村公三郎監督、 宮城野由美子主演)封切。 京都 4・ |
| 1・26 モンブランとジョワ演奏会、ヴィヴァ ルディ「ソナタ イ長調」ほか(京都劇場)。 京都 1・24 | | 4・21~27 壬生大念仏、50年ぶり安達ヶ原・ 本願寺の2狂言を復活。 京都 4・17 |
| 2・1 市川左団次13回忌追善東西合同大歌舞 伎(寿海・寿三郎、南座)。 京都 1・ | | 4・24 平岡養一本琴独奏会(ビゼー「カルメ ン組曲」ほか、弥栄会館、帰国第1回)。 京都 4・25 |
| 2・5 紫紅社新発足(新会友に西阪慶美、京 都華道界の主流)。4・8~11第1回展。 京都 2・9、4・13 | | 4・24 「赤穂城」(東映京都、萩原遼監督、片 岡千恵蔵主演、討入なし)封切。 京都 4・26 |
| 2・10 京都邦楽連盟結成(理事長村山光治郎)。 第1回演奏会(長唄・常盤津・清元・歌沢・浄曲 ・小唄・箏曲・鳴物の「寿三番叟」、八坂倶楽部)。 京都 1・24、2・9、15 | | 4・30 ゲルハルト・ヒュッシュ独唱会、シュ ーベルト「冬の旅」ほか(公衆会館)。 京都 4・5、26 |
| 2・19 京都労音楽史講座第1回(労働会館)。 音楽年鑑 1953 | | 4・一 京都歌劇学校開校。10・18 初公演(修 学院小)昭29・7・30京都新星歌劇学校として再発 足。 京都 5・25、10・21、昭29・7・30 |
| 2・21 日本因協会・女義太夫合同初公演(竹 本三蝶ら、南座、~2・21)。 京都 2・21、23 | | 5・1 諏訪根自子ヴァイオリン独奏会、モー ツァルト「協奏曲第5番」京都初演(栄光館)。 京都 4・25 |
| 2・21 第1回都名人会(茂山千五郎・桂文楽 ・山城小掬・徳川夢声・井上八千代、祇園歌舞練 場)。 京都 2・21 | | 5・5 大徳寺森山管長晋山式。三千家・藪内 ・松尾流各家元在釜す。 京都年鑑 1953 |
| 2・一 京都演劇くらぶ発足。 | | 5・6 京都小唄連合会結成(会長村山光治郎、 柳・里園・春日・蓼4派、この頃小唄流行)。 京都 5・9 |
| 3・1 新国劇創立35周年記念公演、沢田正二 郎立案「殺陣・田村」ほか(南座)。 | | 5・8 トラウベル独唱会、ベートーヴェン 「全智全能の神」ほか、京都劇場、1,500円)。 京都 4・25、5・10 |
| 3・9 宮崎春昇を聴く会(八坂クラブ)。 京都 3・10 | | 5・15 京都市立音楽短期大学開学(学長堀場 信吉、学生52名、日本最初の公立音大)。 京都音楽史 |
| 3・20 北野神社大万灯献茶式(~4・13)。 京都年鑑 1953 | | 5・17 松竹新喜劇、田村楽太引退出演(南座)。 |
| 3・21 望月太意次郎改め2世藤舎芦船披露邦 楽断子大会(先斗町歌舞練場)。 京都 3・21 | | 5・中 閻魔堂狂言保存会結成(戸田弘如ら)。 京都 5・17 |
| 3・25 第1回北野おどり、林梯三作「北野天 神記(北野会館、~4・8、以後毎年継続)。 京都 3・25 | | 5・24 京都学生音楽協会<学音>結成。第1 回演奏会(栄光館)。 京都 5・23 |
| 3・26 4世井上八千代、昭和26年度芸術院賞 受賞。10・4 受賞記念舞踊会(祇甲歌舞練場)。 京都 3・27、10・6 | | 5・25 観世元義33回忌追善能(片山九郎右衛 門「嫉捨」初演、金剛)。 能楽思潮 |
| 3・下 笑福亭円歌没(71歳、落語家)。5・28 落語供養(宝蔵寺)。 京都 5・27 | | 5・31 第1回推薦音楽会(京都市教委、音楽 家に推薦された市民が出演、成安、以後毎年継続)。 京都 5・25 |
| 3・29 文化財保護委員会、無形文化財として、 5種目(壬生大念仏・蹴鞠・閻魔堂狂言・六斎念 仏・赦免地踊)を初めて選定。11・22 祇園祭を選 定(昭29・6 指定廃止)。京都郷土芸能史、祇園祭 | | 5・一 全京都学生演劇連盟結成(京大・同大・ 立大・竜大・美大・学大・工織大)。京都 6・1 |
| 4・1 池坊学園短期大学創立(日本最初の華 道による大学)。 京都 2・10、25 | | 6・8 豊田耕児ヴァイオリン独奏会、こんせ える・ぬうぼお演奏会(成安会館)。 京都 6・1、3 |
| 4・3 エンタツ・アチャコ漫才コンビ復活 (花月劇場)。 京都 4・3 | | 6・13 コルテス舞踊会(ギター—フランシス コ・ヒル、ピアノ—ジャン・ラフォルジュ、公衆 会館)。 京都 6・13 |
| 4・10 民主々義科学者協会京都歴史部会、紙 芝居「祇園祭」製作。5・25 巡回公演(昭43 映画 「祇園祭」の原形)。 歴史評論 昭27・10 | | 6・20 鞍馬竹伐り復活(7年ぶり)。 京都 6・14 |
| 4・14 ボッシュ・カードス・ヘイドン三重奏 団演奏会(京都新聞ホール)。 京都 4・5 | | 7・1 雁治郎・簀助・扇雀ら公演「西郷と豚 姫」ほか(南座)。 京都 6・ |

| 京 | 都 | 府 | 日 | 本 |
|--|---|---|---|---|
| 7・17 祇園祭山鉦29基戦後初の勢ぞろい。 7・10お迎え提灯復活(88年ぶり)。 | | | 1・29 団伊玖磨作曲歌劇<夕鶴>初演(関響、 藤原歌劇団、原信子・大谷冽子・木下保・柴田陸 陸ほか、大阪朝日会館、~2・7、昭32・6・27 スイ スのチューリヒ市立劇場で砂原美智子主演により 上演)。 | |
| 7・21 KHK、地元劇団のドラマを放送開始。 第1回劇団麦の会(長田純主宰)。 京都 7・18 | | | 2・25 二期会第1回公演、<ラ=ボエーム> 上演(東響、グルリット指揮、柴田陸陸・石津憲 一・柴田喜代子ほか、日比谷、~2・28)。 | |
| 7・24 京都宝塚劇場、宝塚歌劇で開場。 京都 7・20、25 | | | 3・29 文化財保護委員会、無形文化財として 工芸技術36件(河面冬山・松波多吉・木内省古・ 加藤土師萌・加藤唐九郎、黄八丈など)、芸能11 件(神楽歌・舞楽・歌舞伎・能の型・郷土芸能な ど)を初めて選定。 | |
| 7・30 巖本真理・園田高弘リサイタル(公衆)。 京都 7・24、8・2 | | | 4・17 <西鶴一代女>(新東宝、溝口健二監 督、田中絹代主演)封切。9月、ヴェニス映画祭 で監督賞獲得。 | |
| 7・一 華頂流華道学園設立。 京都 7・1 | | | 4・21 ヒュッシュ独唱会(日比谷)。5月<タ ンホイザー>、7月<ドン=ジョヴァンニ>に出 演、昭36・5再来日。 | |
| 8・9 ペーヴェント、シェイクスピア作「真 夏の夜の夢」(小牧バレエ団、関響、西京極)。 京都 8・9 | | | 4・24 ヘレン=トラウベル独唱会(帝劇・日 比谷、~4・29)。10・16 エルナ=ベルガー独唱会 (日比谷)。 | |
| 8・14 先代大江美智子13回忌追善興行(南座)。 京都 8・10 | | | 6・28 砂原美智子、オペラ=コミック座(パ リ)に出演、<蝶々夫人>を唱う。 | |
| 8・中 北原将光ら放送劇団波結成。 京都 8・20 | | | 8・14 藤原歌劇団、渡米初公演に出發。10・9 <蝶々夫人>上演(ニューヨーク=シテイ=オペラ)。 昭28・8・5 第2回渡米公演。 | |
| 8・20 「暴力」(東映、吉村公三郎監督、日高 澄子主演)封切。 同上 | | | 9・17 近衛管弦楽団第1回演奏会(第一生命 ホール)。昭31・6・21 ABC交響楽団と改称、披 露演奏会。 | |
| 9・1 喜劇座を脱退した早川道夫ら、京都小 劇場結成。 京都 9・12、10・3 | | | 9・20 渡辺曉雄、高田信一と共に東フィル常 任指揮者となる。 | |
| 9・4 オール新派大合同、花柳・大矢・小堀 ・藤村・英・伊志井・伊井・喜多村・水谷(南座)。 京都 9・ | | | 9・30 コルトー、ピアノ演奏会(日比谷)。 | |
| 9・10 ブダペスト四重奏団演奏会、モーツァ ルト「狩」ほか(公衆会館、入場料特800円)。 京都 9・5 | | | 10・27 モーツァルトの歌劇<フィガロの結婚> 初演(藤原歌劇団・長門美保歌劇団・二期会・東 京オペラ協会・関西オペラグループ、歌舞伎座・ 日比谷、~11・3 大阪などでも公演。芸術祭・都 民劇場公演)。 | |
| 9・14 伏見中央、伏見キネマと改称。 京都 9・11 | | | 12・30 中山晋平没(明20生、65歳、作曲家)。 | |
| 9・29 ウィーンからアイヒラーら4人演奏家 を迎えてN響秋季演奏会(京室)。 京都 9・27、10・4 | | | 11・14 エルナ・ベルガー独唱会(ヤサカ会館)。 音楽年鑑 | |
| 10・2 邦楽音の祭典(古雅音会、八坂倶楽部)。 京都 9・30 | | | 12・2 顔見世。吉右衛門一座に時蔵。(南座 850)。 京都 12・ | |
| 10・2 東映、26・27年度源泉所得税約670万円 滞納で京都撮影所諸設備等差し押さえらる。 東映10年史 | | | 12・8 KHK「放送物語・鼓供養」(芸術祭 初参加、民放連企画賞受賞)。 民間放送10年史 | |
| 10・17 久美浜の秋祭りに10数年ぶり時代行列 復活。 京都 10・17 | | | 12・一 関西学生茶道連盟結成。 京都 12・11 | |
| 10・19 7世片山九郎右衛門33回忌追善能(片 山博太郎「道成寺」初演、大江)。 京都年鑑 | | | | |
| 10・19 長宗成部はま子バレエ団公演(弥栄)。 京都 10・7、22 | | | | |
| 10・21 第1回祇園おどり、野淵昶作「京都ア ルバム」(祇園会館、~10・30、以後毎年継続)。 京都 10・ | | | | |
| 10・28 ソニア・アロワ、バレエ公演「眠れる 森の美女」(小牧バレエ団公衆会館)。 京都 10・23 | | | | |
| 11・2 壬生狂言東上公演。 京都 9・22 | | | | |
| 11・2 オルケスタ・テイピカ・トーキョー楽 団京都初演(ヤサカ会館)。 京都 10・24、11・1 | | | | |

| 京 | 都 | 府 |
|---|---|---|
| 1・2 オール新派大合同、泉鏡花作「日本橋」ほか(南座)。 | | 7・1 シュタフォンハーゲン、ヴァイオリン演奏会(栄光館)。10・13スターン、ヴァイオリン演奏会(公楽)。 京都 6・18、7・3、10・7 |
| 1・24 淡交会(社団)発足(理事長千宗興)。茶の道50年 | | 7・7 阪東妻三郎没(51歳、映画俳優)。7・11松竹京都撮影所内で映画人葬。京都 7・8、12 |
| 3・15 日米親善ジャズ・コンサート(弥栄)。この頃ジャズ流行。5・25 デルタ・リズム・ボーイズと江利チエミ公演(公楽、～5・26)。 京都 3・12、5・26 | | 7・8 京都演芸協会結成。 |
| 3・17 玉徳改め5世吉田辰五郎襲名披露文楽(宮川町歌舞練場、～3・19)。 京都 3・17 | | 7・11 松竹京都地区座館分会・京都撮影所、夏季手当要求スト。 京都 7・12 |
| 3・26 「雨月物語」封切(大映京都、溝口健二監督、田中絹代主演)。9・4 ヴェニス国際映画祭で最優秀外国映画賞受賞。 京都 9・15 | | 7・17 祇園祭。6・17菊水鉾再建(88年ぶり)。祇園祭 |
| 3・30 『京都郷土芸能誌』刊(京都市役所)。3月嵯峨大念仏狂言保存会結成、4・10 釈迦堂狂言復活(17年ぶり)。 京都 4・11、5・9 | | 7・21 千宗守没(64歳、9世武者小路流家元)。若宗匠宗屋が10世を相続。 京都 7・22 |
| 4・1 松竹新喜劇、十吾・天外コンビ25年記念興行(南座)。 京都 4・ | | 8・23 東響ホップス・オーケストラ京都初演奏会(指揮上田仁・黛敏郎、京劇)。11・22日本ホップス交響楽団京都初演(円山)。 京都 8・21、11・16 |
| 4・3 祇園歌舞練場新装開場。9・25 先斗町歌舞練場新装開場。 京都 4・4、8・9、9・25 | | 9・1 日本芸術家信用組合発足(理事長月形竜之助)。(1) 京都年鑑 1955 |
| 4・10 関響松竹第1回定期演奏会(指揮一朝比奈隆、ピアノクローイツァー、ドボルザーク「新世界」ほか、松竹座)。 音楽年鑑 1954 | | 9・5 京都子供の音楽教室開設(中原都男ら、紫明小・聚楽小、5～10歳80人)。 京都 8・31、9・6 |
| 4・20 エンバイヤ・ニュース館開館。12・12 田園ニュース劇場開館。 京都 4・18、12・12 | | 9・9 京宝、京都初のワイド・スクリーン使用。 京都 9・6 |
| 4・25 広田陸一・泰三の第1回兄弟能(金剛)。 京都 4・16 | | 9・一 円山音楽堂改修(定員2,000人→3,000人)。 京都 7・24、9・9 |
| 4・一 ホットクラブ・オブ・ジャパン京都支部結成(津田栄蔵らジャズ愛好者)。京都 4・3 | | 9・12 新国劇、北条秀司作「井伊大老」ほか(南座)。 |
| 5・1 寿海・寿三郎一座「仮名手本忠臣蔵」戦後京都初の<討入本懐>(南座)。京都 5・7 | | 10・3 松竹新喜劇、野淵昶作「旧人新人」ほか(南座)。 |
| 5・4 新音楽文化の会第1回プレミア・パレード(シックス・ジョーズ出演、京都新聞ホール)。 京都 4・30 | | 10・3 ソロモン、ピアノ演奏会(京劇)。 京都 9・3 |
| 5・10 大江竹雲13回忌追善能(大江)。5・10 金剛巖3回忌追善能(金剛)。 京都 5・8、京都年鑑 1954 | | 10・17 日本演劇学会関西支部発会(山本修二ら、京大楽友会館)。 京都 10・16 |
| 5・15 葵祭復活(12年ぶり)。4・1 葵祭行列協賛会発足(会長坂内義雄)。 京都 1・11、2・21、4・2、5・11 | | 10・18 宮城道雄をきく会(京都新聞ホール)。 京都 10・19 |
| 5・25 中尾都山、昭和27年度日本芸術院賞受賞(尺八界につくした功績)。 都山流70年史 | | 10・23 関西オペラ京都初演奏会「カルメン」(関響、指揮宮本政雄、関西オペラ合唱団、松竹座)。 京都 10・20 |
| 6・3 菊五郎劇団に海老蔵・九朗右衛門帰朝出演「素襖落」ほか(南座)。 京都 6・ | | 10・27 フランス映画祭(フランス大使館主催、公楽)。 京都 10・25 |
| 6・10 ヘルシャー、チエロ演奏会(公楽)。 京都 5・21、6・2 | | 10・30 東京ニュー・アンサンブル京都初演奏会(成安)。 京都 10・21 |
| 6・28 京都マンドリン・ソサエティ第1回演奏会(民生会館)。 京都 6・27 | | 10・31 「地獄門」封切(大映京都、衣笠貞之助監督、長谷川一夫主演、カラー時代劇第1作)。昭29・4・10カンヌ映画祭でグランプリ受賞。 京都 昭29・4・12 |
| 6・一 市川福升ら市川少女歌舞伎京都初演。 | | 11・10 野村得庵追善能(碧雲荘)。京都 11・14 |
| | | 11・10 ザビエル・クガート、ジャズ公演(松竹座)。12・17 ルイ・アームストロング公演(松竹座)。 京都 10・15、12・20 |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|--|---|---|---|
| (1) 日本芸術家信用組合発足 | 昭27秋から日本映画俳優協会が提唱、映画界をはじめ、演劇・舞踊・茶道・華道・美術工芸・文壇など凡ゆる芸術分野に呼びかけ設立に奔走した。昭28・6・7、創立総会が持たれ、理事長に俳優協会長月形竜之介を選出したほか、窓口業務担当の理事3名と各部門代表の役員就任などを決定した。この組合は「中小企業等協同組合法」改正後、京都府下では初の認可を得たもので、その意味からも多大の反響を呼んだ。 | 3・5 シゲティ、ヴァイオリン独奏会(日比谷。昭7・11以来20年ぶり)。 | |
| | 同年9・1、営業を開始して以来、芸術部門関係者をはじめ、広く中小企業者の預貯金および金融機関として好評を得ている。設立当初の出資金は604万円、組合員数462名であった。 映画年鑑 1953 | 3・16 ギーゼキング、ピアノ独奏会(日比谷)。3・19～3・20N響と協演。 | |
| | | 4・4 ウィリアムズ<欲望という名の電車>初演(第一生命ホール、文学座、杉村春子主演、～4・20)。 | |
| | | 5・21 久保栄<日本の気象>初演(第一生命ホール、民芸、～6・8。6月<新潮>)。 | |
| | | 6・14 ショスタコーヴィッチのオラトリオ<森の歌>初演(紫明混声合唱団、桜井武雄指揮、コンセル=ヌーヴォー、京都円山会館。以後労音なども公演)。 | |
| | | 6・25 原太郎ら、わらび座結成、第1回公演(秋田県仙北郡長田村)。 | |
| | | 7・7 阪東妻三郎没(明34生、51歳、映画俳優)。 | |
| | | 9・1 日活、製作再開を発表、昭29・6・29、第1回作品<国定忠治>(滝沢英輔監督)ほか封切。 | |
| 11・12 前進座「鳥辺山心中」ほか(弥栄)。 京都 11・9 | | 9・10 5社協定(松竹・東宝・大映・新東宝・東映による俳優、監督などの引抜き防止を目的とする)調印、同日発効。 | |
| 11・15 長宗我部はま子バレエ研究所落成。 京都 11・16 | | 10・30 クロイツァー没(1884生、69歳、ピアニスト)。 | |
| 11・17 京都市立音楽短大第1回定期演奏会(弥栄)。 京都音楽史 | | 10・一 松竹、<壁あつき部屋>(小林正樹監督、BC級戦犯を扱う)の公開を延期、昭31・10・31封切。 | |
| 11・18 東映、「日輪」封切(東映カラーの始め)。 東映10年史 | | 11・29 中央合唱団(昭23・1結成)5周年記念<1953年日本のうたごえ>(日比谷)。うたごえ運動さかんとなる。 | |
| 11・19 裏千家5代常叟250年忌法要茶会(聚光院、参会者2,000名余)。 茶の道50年、淡交 昭28・12 | | 12・26 シネマスコープ第1作<聖衣>(米)、有楽座と大阪南街劇場(12・30)で封切。 | |
| 11・19 ルッサン「あかんば頃」初演(文学座、岩田豊雄演出、弥栄)。 京都 11・19 | | この年 | |
| 11・26 井上八千代・佐多東上、芸術祭に「雪まろげ」・「雨月」を舞い、昭和28年度芸術祭受賞(12・8)。昭29・2・13記念公演(祇甲歌舞練場、～2・15)。 京都 11・29、12・9、12、昭29・2・12、14 | | ▷ 華道草月流、草月会と改組、会員制、家元制度を廃止。 | |
| 11・30 ジャン・マルティノン指揮のN響京都演奏会(京劇)。 NHK交響楽団40年史 | | | |
| 11・一 P T Aコーラス第1回交歓音楽会(紫竹小)。 京都音楽史 | | | |
| 12・1 顔見世、寿海・時蔵一座、吉井勇作「阿国山三・歌舞伎草紙」ほか(南座、寿三郎京都最後の舞台)。 | | | |
| 12・1 ノラ・ケイ、バレエ公演「白鳥の湖」(小牧バレエ団、近衛管弦楽団、京宝、～12・2)。 京都 11・5、8、28、12・1、2 | | | |
| 12・16 京洛劇場開館。12・16 映画劇場「P・C・L」開館。 京都 12・6、10 | | | |

| 京 | 都 | 府 |
|---|---|--|
| 1・2 新派大合同、川口松太郎作「初夜」ほか(南座)。 京都 1・13 | | 5・— 京都の音楽記者会を中心に京都文化クラブ結成。5・24 第1回音楽会(園田高弘ピアノ独奏会、府立医大ホール)。 京都 5・21 |
| 1・18 ジェロメーヌ・ルルー、ピアノ独奏会(公楽)。3・17マックス・エッガー、ピアノ独奏会(弥栄)。4・19ウィルヘルム・バックハウス演奏会(公楽)。 京都 1・14、3・11、4・18 | | 5・28 第1回京都名流舞踊大会(坂東鶴之助・中村扇雀ら、京都新聞社・京都府共同募金会・京都名流会共催、祇甲歌舞練場、盛況)。 京都 5・29 |
| 1・下 京都市立音楽短大、西独政府寄贈のレコード31枚受納。 京都 2・4、19、22 | | 6・6 花柳弘乃の第1回弘乃会発表会(北野会館)。 京都 6・1 |
| 1・下 東映、2本立製作強行により中編の<娯楽版>量産。4・27「笛吹童子」、12・27「紅孔雀」(ともに萩原遼監督、中村錦之助主演)など児童観客層に大ウケ。 | | 6・13 金剛流の広田陸一・泰二ら青年楽師で青雲会結成。第1回能(金剛)。 京都 6・9 |
| 1・31 京都市観光課・交通局厚生会主催「観光文化のつどい」発足。1月例会に能楽鑑賞会(金剛)。 京都 1・18 | | 6・18 市川少女歌舞伎、南座へ初進出。 京都 6・16 |
| 2・23 煎茶家元の大同団結をはかる懇談会(黄壁売茶流・小川流・番茶道・売茶本流・花月庵流など、万福寺)。 京都年鑑 1955 | | 6・19 東映京都撮影所第5・6ステージ竣工。昭30・3・12 第7・8、昭31・1・30 第9・10、昭31・10・23第11竣工。 東映10年史 |
| 3・8 京都の日活関西支社閉鎖(映画製作に進出した日活では配給業務開始にともない大阪の新阪神ビルに移転)。 京都 3・8 | | 6・24 千土地労組、夏季手当1カ月分要求と給料分割払い反対のためスト入り。京劇・文映・京洛劇場・八千代館休館。7・3 解決。 京都 6・25、27、29、7・4 |
| 3・21 第1回ショーウィンドウいけばな展(四条・河原町通の商店約90店協力)。 京展20年のあゆみ | | 6・— 梶原定演奏会(栄光館)。 京都年鑑 1955 |
| 3・21 郷土文化と伝説を語る会発会(京都新聞社主催、田中緑紅ら)。 京都 3・13 | | 7・14 文学座関西第37回公演「紙風船」(牛山ホテル)(弥栄、～7・16、岸田国土追悼)。 京都 6・22、7・6 |
| 3・26 石井漢バレー公演「人間釈迦」(關響、南座、～3・28)。 同上 | | 8・8 関響納涼コンサート(指揮、朝比奈隆・宮本政雄、円山、入場料200円)。京都 8・5、9 |
| 3・31 「山椒大夫」(大映京都、溝口健二監督、田中絹代主演)封切。9・7 ヴェニス映画祭国際銀獅子賞受賞。 京都 9・9 | | 8・— 京宝・京都京映、シネマスコープ施設を完備。 映画年鑑 1955 |
| 4・10 京都市、毎週土曜・円山音楽堂で土曜コンサートを開催。在洛音楽演奏団体に発表の場を提供、入場無料。(以後毎年継続)。京都 4・8 | | 8・— 国際映画(株)創立(社長木村虎一)。 映画年鑑 |
| 4・20 堂本寒星著『上方芸能の研究』刊(河原書店)。 | | 9・1 京都芸術家国民健康保険組合誕生(理事長富井舜山)。 映画年鑑 1956 |
| 4・21 KHK「ある作曲家の話」、民放祭で奨励賞受賞。 京都 4・22 | | 9・4 京都地裁第3民事部宅間裁判長、係争中の大映京都撮影所のレッド・パージ7名のうち元助監督村上進ら4名に解雇無効の判決を下す。 京都 9・5、映画年鑑 1956 |
| 4・26 ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮のN響特別演奏会(京劇)。 京都年鑑 1955 | | 9・5 「子供のための音楽教室」と「桐朋女子高校音楽科」合同演奏会(弥栄)。 京都 9・1、3、京都音楽史 |
| 4・30 フェルチオ・タリアビーニ独唱会(イタリアン・テナー、京劇)。12・6 ポーラ京都公演(弥栄)。 京都 4・28、5・1、11・28 | | 9・6 大谷冽子帰国歓迎独唱会(弥栄)。9・23松浦律子独唱会(成安)。 京都 8・28、9・19 |
| 5・1 東西合同大歌舞伎(時蔵・仁左衛門、簀助ら、南座)。 | | 9・25 梅若実喜寿祝賀能「鷲」(金剛)。10・3 金剛能に巖「松風」(金剛)。 京都 9・22、10・1 |
| 5・7 観世流に復帰した梅若実・六郎の初の京都能(金剛)。 京都 5・10 | | 10・10 京都労音混声合唱団第1回定期演奏会(成安)。 京都 10・7 |
| 5・20 「みずえ会」発会(宮川町芸芸奨励研究会「むつみ会」改称)。 京都 5・22 | | 10・10 カバレフスキー協奏曲本邦初演(巖本真理ヴァイオリン独奏会、弥栄)。 京都 10・9 |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|---|---|--|---|
| (1) 主要キャストは肝っ玉おっ母(毛利菊枝)兄息子アイリフ(川勝主一郎)二男シュワイツェルカス(玉生司朗)啞娘カトリン(黒崎美鈴)従軍牧師(北村英三)。くるみ座はブレヒトの戦争憎悪の叫びと巧みな表現に共鳴し上演にふみきったが、本邦初演ということで京大独文大山教授・前田助教授・俳優座田中千禾夫らに特別指導をおおいだ。というように意欲的試みであったけれども宣伝不足でもあり、不入り。2,000枚の切符が900枚しか出ず赤字となった。 京都 10・24、11・24 | | 1・26 3人の会結成、第1回交響作品演奏会(閉<シンフォニア=ブルレスカ>、芥川<交響的歎歌>、巖<饗宴>、日比谷)。 | |
| (2) 京都市観光局では文化観光祭事業の一つとし芸能記者会、松竹・大映・東映の在洛3撮影所後援でコンクール形式の映画祭を主催。映画産業の京都市で占める重要性を市民に認識させようというのが大きなネライ。在洛3社が過去1年間に製作した作品中、市民投票により市民賞3本を決定し芸能記者会が、最優秀映画賞・部門賞を決定。第1回は | | 1・28 能楽梅若一門、観世流に復帰。 | |
| ・最優秀映画賞=大映「山椒大夫」 | | 2・18 吾妻徳徳の<アズマカブキ>渡米、初公演(戦後初の海外舞踊公演)。6・11帰国。 | |
| ・市民賞=松竹「忠臣蔵」・大映「山椒大夫」・東映「笛吹童子」 | | 3・5 岸田国土、<どん底>稽古の演出中倒れ、没(明23生、63歳)。5月<新劇>《芸芸》で追悼特集。 | |
| ・部門賞・主演男優=片岡千恵蔵 | | 4・7 カラヤン、N響を指揮(～5・9)。 | |
| ・主演女優=田中絹代 下略。京都 11・4、8 | | 4・8 ミラー作・菅原卓訳<セールスマンの死>初演(一ツ橋講堂、民芸、滝沢修・宇野重吉ら、～4・28、5月帝劇で再演)。 | |
| | | 4・9 バックハウス、ピアノ独奏会(日比谷)。 | |
| | | 4・18 ハイフェッツ、ヴァイオリン独奏会(帝劇。昭6につき3回目)。 | |
| | | 4・20 俳優座劇場(六本木)開場式、4・24 第1回公演、アリストパネス作・高津春繁訳<女の平和>初演(～6・13)。 | |
| | | 5・5 俳優座こどもの劇場、マルシャーク<森は生きている>初演(～7・25)。 | |
| | | 5・8 第1回東南アジア映画祭、東京で開幕。昭31、アジア映画祭と改称。 | |
| | | 9・5 中村吉右衛門没(明19生、68歳)。 | |
| | | 9・6 ヴェニス映画祭で<七人の侍>(4月、東宝、黒沢明)、ともに銀獅子賞を獲得。 | |
| | | 9・22 ケンプ、ピアノ独奏会(山葉ホール、～11月、2回目の来日、10・12～10・13N響と共演。昭36・10月、昭40・5月)。 | |
| | | 10・28 文学座・俳優座・民芸合同公演、チェーホフ50年祭記念の<かもめ>上演(俳優座劇場、～11・15)。 | |
| | | 11・8 フルニエ、チェロ独奏会(日比谷)。 | |
| | | 11・9 ケンプと共演(日比谷)。 | |
| | | 11・18 武智鉄二、岩田豊雄<東は東>・木下順二<夕鶴>を能・狂言様式で演出(新橋演舞場、～11・20)。 | |
| | | 12・1 日本基督教団編<讃美歌>(戦後初の改訂)。 | |
| | | この年 | |
| | | ▷ 新劇活動さかん。四季(<アルデルまたは聖女>)・仲間(<夕空晴れて>)・新人会(<墓場なき死者>)・青俳(<フォスター大佐は告白する>)・青年座(<第三の証言>)など結成、第1回公演。 | |

昭29(1954)年

| 京 | 都 | 府 |
|-------|--|---|
| 10・16 | イギリスBBC交響楽団正指揮者マルコム・サージェントによる関響特別演奏会（アイスパレス、入場料特1,000円）。 京都 9・22、10・5、10、11、15、17 | |
| 10・16 | 日本映画製作者協会設立（理事長マキノ光雄）。 映画年鑑 1956 | |
| 10・17 | 「忠臣蔵」（松竹京都、大曾根辰夫監督、松本幸四郎主演）封切。 同上 | |
| 10・23 | プレヒト「肝っ玉おっ母とその子供たち」本邦初演（くるみ座、弥栄、～10・24）。 ⁽¹⁾ 京都 10・24 | |
| 10・26 | 京都市民能はじまる。円山。 京都 10・21 | |
| 11・1 | 中崎皇恵連続ピアノ独奏会第1回（成安、ショパン全作紹介）。 京都 10・14 | |
| 11・7 | 歌舞伎映画鑑賞会（弥栄、故吉右衛門・延若をしのんで「盛綱陣屋」「楼門五三桐」）。 京都 10・21 | |
| 11・14 | 京大劇団風波、「育ちゆく芽」初演。京都女子大学の教育方針を諷刺した内容・京女大生の出演参加が問題化。京女大、12・7東京公演不許可、12・23出演6学生無期停学処分、昭30・1・14処分取消し。 京都 11・26、12・2～7、17、19、20、24、昭30・1・15 | |
| 11・27 | 第1回京都市民映画祭（京都市主催、弥栄会館）。 ⁽²⁾ 京都 11・4、8 | |
| 11・27 | 大江能楽堂45周年記念大会（～11・28）。 11・28観世定期能に九郎右衛門「身延」。12・9金剛巖、第9回芸術祭奨励賞受賞。 京都 11・28、12・10 | |
| 12・2 | 顔見世、寿海・簗助・仁左衛門・雁治郎・猿之助・時蔵（南座）。 | |
| 12・15 | 千土地労組、越年資金支給問題がこじれスト突入。京都では京劇・文映・京洛・八千代の4館を舞台に攻防。12・16京劇前でピケ破りがあり2名負傷、警察官出動。12・20京劇・文映・八千代、12・21京洛、第2組合員により再開強行。12・26総評京都地評、第1組合を支援して八千代開映阻止・文映前ピケ戦術。昭30・1・5千土地スト解決。 京都 12・13、16～18、20～23、52～28、昭30・1・6 | |
| 12・19 | 京極東宝新装開館（京極大映を吸収）。 京都 12・17、20 | |
| 12・24 | 松竹劇場、京都ピカデリー劇場と改称。12・28京極日活、京極弥生座と改称。 京都 12・23、28 | |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|---|---|---|---|
| | | | |

| 京 | 都 | 府 |
|---|---|---|
| 1・2 鶴之助らの新春座結成第1回公演「舞踊劇、大和楽・長崎の踏絵」ほか(南座)。松竹70年史 | | 4・21 KHK録音風物誌「京の竹」、民放祭番組コンクール連盟賞受賞。民放10年史 |
| 1・27 文化財保護委員会、重要無形文化財技術指定制度第1次指定を内定。2・15告示(豊竹山城少掾・竹本住太夫・井上八千代ら)。京都 1・28 | | 4・一 「都おどり」など花街舞踊の入場税率5割か2割か、問題となる。京都 1・14、3・24、28、5・16 |
| 1・一 片山博太郎・茂山千之丞ら無道会結成。1・29武智実験演劇の能・狂言様式による「夕鶴」・「東は東」関西公演(祇園歌舞練場)を主催。京都 1・16、27、2・1、12・10 | | 5・5 第1回全京都洋舞公演(在洛バレエ団出演、京都新聞社主催、弥栄)。京都 4・21、5・3 |
| 1・一 京都市民音楽教室発足(京都市主催)。京都 12・31 | | 5・上 府青少年問題協議会、在洛各撮影所長・府下87全映画館に対し要望書を送り<有害映画の排除>に協力・自粛を求める。京都 5・7 |
| 1・一 松竹、高村潔を大船・京都両撮影所長に任命、製作部門の一元化実施。8・15松竹、機構改革により東西一元化実施。日本映画発達史 | | 5・10 シンフォニー・オブ・ジ・エア京都演奏会(指揮ヘンドル、ベートーヴェン「英雄」ほか、京劇)。京都 5・11 |
| 2・2 早川真平とオルケスタ・ティピカ東京公演(松竹座)。8・25(円山)。京都 1・24、31、8・19 | | 6・3 東西花形大歌舞伎。八百蔵改め中車・又一郎一座「平将門」ほか(南座)。京都 6・ |
| 2・6 都山流60周年記念演奏会(先斗町歌舞練場)。京都 2・4 | | 6・23 松本佐多没(明6生、83歳、京舞、井上流、本名愛子)。京都 6・24 |
| 2・17 文部省、紫綬褒章第1回受賞者を内定。大谷竹次郎・永田雅一ら。京都 2・18 | | 7・1 俳協京都支部、NHKによる女優侮辱事件(6・19 NHK放送中に映画女優を売春常習者中に加えたため抗議の声高まる)で、関西地区NHK謝罪要求実行委員会結成(委員長月形竜之助)。7・3円満解決。映画年鑑 1956、京都 7・1 |
| 2・27 「血鎗富士」封切(東映京都、内田吐夢監督、片岡千恵蔵主演)。日本映画発達史 | | 7・10 千土地系4映画館、京都初の<ナイトー>(午後10時10分~12時、料金半額)。京都 7・21、9・18 |
| 3・1 京都府の映画館、京都興行協会の申し合せにより2本立(以下)興行に自粛。京都 2・6、15 | | 7・17 祇園祭。6月東京で月鉾展示。祇園祭 |
| 3・3 オイストラッフ、ヴァイオリン独奏会(京劇)。音楽年鑑 | | 7・一 パレス大劇場・パレス北劇場・パレス南劇場開館。11・26三条大映、12・27美松大劇場・美松名画劇場、12・29センター松竹劇場開館。10月日本座、日劇と改称。 |
| 3・5 大映京都撮影所拡充(隣接敷地1686坪にスタッフルーム・大道具倉庫竣工)。3・12東映京都撮影所2ステージ増設竣工。3・16東映、大映より賃借中の京都撮影所の土地建物を買収(3・7売買交渉成立、6700万円)。映画年鑑 1956、東映10年史 | | 7・30 京都市民合同交響楽団演奏会(これまで土曜コンサートに単独で出演していた京都市民の音楽陣を動員、円山)。9・13京都オーケストラ連盟発足(委員長山田忠男) ⁽¹⁾ 。京大音楽部沿革史、音楽年鑑、京都 5・22 |
| 3・12 ウォルフ、ピアノ演奏会(弥栄)。4・28木村笑子、ピアノ演奏会(成安)。4・30竹内美和子・ノーウィック、ピアノ二重奏の夕(成安)。京都 3・3、4・27 | | 9・6 松竹経営50周年記念大歌舞伎。寿海・仁左衛門一座「寿門松」ほか(南座)。 |
| 4・4 坂東夔助、鶴之助の明治座出演拒否をめぐり「一俳優の言によって他の俳優が舞台を失うようなことは人権侵害である」と奥山市三松竹大阪支店長らを相手どり、京都法務局人権擁護課に<人権侵害>の申告を起す。4・11関西俳優協会会長市川寿海の仲で「配役公正決定・鶴之助復帰・俳優協会強化」の3項について松竹幹部と和解が成立したため、夔助、申告を取下げ。京都 3・29、4・2、4、5、12 | | 9・21 「新・平家物語」封切(大映京都、溝口健二監督、市川電蔵主演)。京都 9・ |
| | | 9・25 前進座京都公演「絵本太功記」ほか(弥栄、劇団創立25周年記念~9・29)。京都 9・26、30 |
| | | 9・一 朝日会館で上映のメトロ映画「暴力教室」問題となる。9・9 未成年者入場禁止。上映期間短縮。9・19、23府教委、各地方教委・学校あて「有害映画、出版物などの対策について」通達。映画年鑑 1956、京都 9・10、13、24 |

| 参 | 考 | 日 | 本 |
|-----|--|--|---|
| (1) | このときの反省会が京都オケ連を組織する契機となった。その後京都オケ連設立についての第1回委員会が9月13日楽友会館で開かれ、京大を含め10の団体(大学オーケストラが中心であった)の責任者と市側からの代表者が出席して討議された。そして委員長には山田忠男を選び、各団体間の連絡を密にし、相互の発展と音楽文化向上に寄与する目的で正式に発足、合同演奏は発足以来毎年行ってきた。40年には10同目を迎えた。京大音楽部沿革史 | 1・5 | シネラマ、帝劇と大阪OS劇場(1・15)で初公開。 |
| | | 1・27 | 文化財保護委員会、重要無形文化財技術指定制度第1次指定を内定。2・15告示(喜多六平太・豊竹山城少掾・石黒宗麿・浜田庄司・富本憲吉・松田権六ほか)。11月宮内庁雅楽部も指定。 |
| | | 2・23 | D. オイストラッフ(ソ連)、ヴァイオリン独奏会(日比谷)。 |
| | | 3・10 | 清瀬保二<ピアノ協奏曲>初演(東響68回定期、上田仁指揮、Pf.園田高弘、日比谷)。 |
| | | 4・20 | 音楽家クラブ主催第1回現代音楽演奏会(別宮・小倉らの作品、山葉ホール)。 |
| | | 5・11 | 大栗裕作曲<赤い陣羽織>初演(朝比奈隆指揮、関響、関西歌劇団、大阪三越劇場)。 |
| | | 7・2 | 東宝歌舞伎第1回公演、<帰って来た男>ほか(東宝劇場、長谷川一夫・中村歌右衛門ら、~7・26)。 |
| | | 7・一 | 石原慎太郎<太陽の季節>(《文学界》、第34回芥川賞。昭31・5・17映画化)。 |
| | | 8・29 | 市川猿之助一行60人、中国に招かれ出発、1カ月にわたり各地で歌舞伎公演。 |
| | | 11・27 | 黛敏郎作曲電子音楽3曲・柴田南雄作曲具体音楽、NHKから放送。 |
| | | 12・17 | パントマイムのマルソー来日し、公演(東京の産経ホールほか各地で)。 |
| | | 12・20 | 関鑑子、国際スターリン平和賞受賞決定。 |
| ↗ | 10・2 | 24世観世左近17回忌追善能(大江)。京都 9・15 | |
| | 10・11 | 「青銅の基督」封切(松竹京都、渋谷実監督、滝沢修主演)。 | |
| | 10・24 | 京都市教委、市内の幼稚園・小・中・高校長あて「学校施設を利用して開催する各種の団体映画会について」通達、自粛の断を下す。京都 10・21 | |
| | 10・22 | 劇団京芸・京劇研・くるみ座・こうもり座・テアトロトフンなどの京都新劇団合同公演、シラー「群盗」(弥栄、~10・24)。京都 11・23 | |
| | 10・26 | アレキサンドラ・ダニロワ、バレエ公演(祇甲歌舞練場)。京都 10・27 | |
| | 10・一 | 口語体の狂言「彦市ばなし」上演(茂山狂言会、大江)。京都 10・24 | |
| | 11・3 | 大谷竹次郎、文化勲章受賞。12・20大谷さんを祝う会(祇甲歌舞練場)。京都 10・12、12・21 | |
| | 11・5 | 第1回京都能(広田陸一ら各流若手、京都新聞社主催、京都新聞ホール)。京都 9・15、10・24、11・6 | |
| | 12・1 | 顔見世東西合同。寿海・雁治郎・段四郎ら「菅原伝授手習鑑・賀の祝」ほか(南座、入場料金900~150円)。京都 12・1 | |
| | 12・20 | 文学座・俳優座・劇団民芸の関西初合同公演、ヘルマン「秋の園」(弥栄、入場料300~250円)。京都 12・11、21 | |